

家畜伝染病等の種類	家畜の種類	病原体	概要	診断法	発生状況	体内分布	ヒトへの感染経路	治療法	予防法	参考文献
① アイノウイルス感染症	牛 水牛	Aino virus (<i>Bunyavirus</i>)	概要 Simbuviridae科、Bunyavirus属、Symbuに属するアイノウイルスの感染による牛の異常産を特徴とする疾病。本ウイルスは抗原的にアカハネウイルスとは全く異なる。わが国では9月から10月にかけて流行する。また、本ウイルスはオーストラリアでも分離されており、先天性関節湾曲症、無胎産症、胎死に罹患した初乳未採取子牛の血清中に抗体が検出されたこととから、異常産との密接な関係が示唆されている。母牛は本ウイルスが感染しても臨床症状を示さないが、牛の抗体陽性率は高い。本ウイルスは主に牛と水牛に感染するが、馬や豚からも抗体が検出されている。	診断法 診断はアカハネ病に準じて実施する。初乳未採取子牛の血清中に中和抗体を検出する。ウイルス分離は乳のみマウス（株）を用いて行う。診断にはアカハネ病、チャウガザ病、牛ウイルス性下痢病、粘膜炎などの先天異常の病徴を同時に確認することが重要である。	発生状況 日本とオーストラリアで流行が確認されている。ウイルスは吸血昆虫（アカハネ）によって媒介され、アカハネウイルスと同時流行を起す。これまでにアイノウイルス感染による子牛の先天異常の発生は少なく、アカハネ病に比べて学術的意義は小さいものと考えられているが、1995年11月～1996年4月に九州地方から近畿地方にかけて本病による先天異常が多発し、北進している。	体内分布 牛への感染は試験で10 ^{5.0} ～10 ^{6.5} TCID ₅₀ /mlのウイルスが分離されたが、感染後2～3日で消失した。	ヒトへの感染経路	治療法	予防法	参考文献 1) Aust. Vet. J., 54: 151, 1978. 2) Microbiol. Immunol., 22: 651-654, 1978 3) 動物の感染症、近代出版、110, 2002. 4) J. Vet. Med. Sci., 60: 1139-1140, 1998.
② イバラキ病	牛 水牛	Epizootic hemorrhagic disease virus	イバラキウイルスはReoviridae, Orbivirusに属する二本鎖RNAウイルスである。直径約50 nmの球形で1個または多数の細胞膜由来のエンベロープを被る。蚊などの吸血昆虫によって媒介される。蚊に感染するが、牛にのみ病原性を示す。実験的には乳のみマウスの脳内に接種により非化膿性脳炎を起すことも、発育鶏卵の卵黄嚢内に生息すること、腎臓やVerotoxin産生細胞でも増殖する。牛では膝下腫瘍を主徴とするが不顕性感染も多い。感染初期には39～40℃の発熱、食欲不振、結膜の充血、浮腫、泡沬性唾液などが見られ、重症例では鼻及口腔粘膜のひらひらや潰瘍が現れる。脱水状態に陥る。水分補給によって回復することも多い。ワクチンによる予防可。夏～秋の流行期前に接種しておく。	ウイルス分離後蛍光抗体法や中和テスト、RT-PCRも可能。ペーパーを用いてHIV反応あるいは中和テストにより抗体価の上昇を確認することもできる。	日本、韓国、台湾でのみ発生。日本では1959～60年に関東地方各地で発生して以来、長期間発生しなかったが、1982, 1987, 1997～98年に西日本で発生が認められた。感染牛はウイルス血症を呈し、吸血昆虫と共に不顕性感染牛がウイルスの流行と持続に影響すると考えられる。	ウイルス血症を起すか、舌や食道の筋肉内でウイルスが増殖する。	ヒトへの感染例の報告はほとんど見当たらない。	治療法	感染牛と接触する個人防護が重要	動物の感染症(編) 澤田 隆、近代出版
③ 牛丘疹性口炎	牛 水牛	Bovine papular stomatitis virus (<i>Parapoxvirus</i>)	Poxviridae科、Parapoxvirus属、牛丘疹性口炎ウイルスの感染によって起こる口部とその周囲に丘疹形成を主徴とする疾病。病変は水疱、膿疱にまで進行し、細菌の二次感染により潰瘍化することがある。また、乳頭およびその周囲に丘疹形成をみることもあり、なお、この乳頭に病変を形成するウイルスは偽牛痘ウイルスとして分けられているが、接種部位を変えた実験感染では、両ウイルスとも同様な病変を形成する。また、主に同様な病変を形成するオルトウイルスも同様に分離されている。通常、牛、羊ともに感染することは少ない。しかし、ニホンカモノガが本ウイルスに感染すると、口部周囲に形成された丘疹が水疱、膿疱に進行し、さらに眼瞼まで拡大することがあり、採食不能となり病死する場合がある。人獣共通感染症である。	口部や乳頭に形成された丘疹から診断する。病変部の生検材料を電子顕微鏡で観察し、卵型、竹筈状のウイルス粒子の存在を認べる。ウイルス分離は病変部細胞を牛田菜の培養細胞に接種する。抗体検査は感染した牛の乳管内液、膿液、または感染細胞を抗原とした蛍光抗体法で行う。しかし、本ウイルスに高い抗体陽性率の存在が必ずしも本病の流行の証にはならない。	本病は世界中に分布し、日本にも存在する。本ウイルスの感染を受けやすいのは年齢とともに増加し、7歳以上では約80%の感染率となる。	不顕性感染動物からウイルスを分離することは困難である。ストレス負荷により、発熱抑制により、赤痢、白血球減少、ウイルスが分離されることがある。丘疹を形成している動物の病変部にはウイルス粒子が多量に観察されるが、その他の組織からウイルスを分離することは困難である。	接触感染	対症療法	感染牛と接触する個人防護が重要	1) Fields Virology, 3rd ed., Lippincott-Raven, 2873-2702, 1996. 2) Microbiol. Immunol., 44: 73-76, 2000. 3) Microbiol. Immunol., 46: 285-291, 2002. 4) Vet. Rec., 81: 306-313, 1967.

畜舎伝染病等の種類	家畜の種類	病原体	概要	診断法	発生状況	体内分布	ヒトへの感染経路	治療法	予防法	参考文献
① 畜舎伝染病等の種類 牛流行熱	牛 水牛	Bovine ephemeral fever virus*	Rhabdoviridae科, <i>Ephemerovirus</i> 属。牛流行熱ウイルスの感染によって起こる急性熱性疾患である。かつて牛の流行性感冒と呼ばれていたように、一過性の高熱、呼吸促進などインフルエンザ様病状を特徴とする。本病は晩夏から晩秋にかけて主に西日本で発生する。本病の伝播には吸血昆虫(ヌカカ)が重要な役割を果たす。ほかに水生であるが野牛およびほかから抗体が検出されている。	ウイルス分離は感染初期の病牛からへパリン加血液を採取し、PBSで洗浄後の血液をBHK21細胞、HmLu-1細胞、Vero細胞へ接種し培養する。また、乳のみマウス、乳牛のみ、ラムスターの脳内接種法も有用である。しかし分離には培養細胞法、動物接種法とも2~3代継代することが必要である。分離ウイルスは蛍光抗体法、中和反応などにより同定する。また、洗浄血液から抽出したRNAを用いたPCRも補助診断として有用である。	本病は、アフリカ諸国、アジア、オーストラリア、中近東、中国、台湾、日本などで発生がある。わが国では1989~1993年にかけて九州、中国、近畿地方での発生が最も古い記録であり、1949年~1951年の本流行以来、数年ごとに発生が繰り返されてきた。本病の常在地域は、関東以西に限定され、北海道、東北地方など北緯38°以北での発生は確認されていない。現在では、フクチンが関与されている。現存は、台湾で発生も流行している。	生への感染試験の結果、本ウイルスは白血球、特に白血球に存在することが明らかになっている。臓器での分布は明らかでない。	ヒトへの感染例は見あたらない。	ヒトへの感染経路	汚染地域では水、土壌との接触を避ける	参考文献 1) Veterinary Virology, 3rd ed., Academic Press, 441-442, 1999. 2) Bull. Natl. Inst. Anim. Health, 62: 1-15, 1971. 3) 獣医学伝染病学, 第4版, 近代出版, 81-83, 1995.
② 類鼻疽	牛, 馬, めん羊, 山羊, 豚 水牛, しか, いのし	<i>Burkholderia pseudomallei</i>	本病はBurkholderia pseudomalleiの感染によるとしてげっ歯類の疾病である。反刍動物、馬、犬、猫および人にもしばしば感染し、馬鼻疽結核病病原をつくる。本病原は土壌や水の中で長期間生存する日和見病原体。	菌の分離と同定(凝集反応)。CF反応、ELISA、蛍光抗体法などによる抗体検出。	アジア、オーストラリア、西インド、南米、米州。日本に発生はない。汚染環境(土壌や水)から創傷、呼吸器、消化器に感染。動物は動物への直接伝播はない。人への感染はまれ。土壌感染に起因する流行は、高温多湿の地帯で洪水や大雨のあつたときやその後起こる。	病状は動物によって異なる。牛、羊、山羊(肺炎、膿汁排泄、痢)、山馬(乳房炎)、馬(呼吸器、疝痛、下痢)を呈し、本菌部位としてはリンパ節や肺臓器での感染もある。脳などの乾酪性結核。	経口感染、経気道感染	膿瘍からシリンジで支持療法。多くの抗生剤に耐性。セフトリアキソンが第一選択薬	汚染地域では水、土壌との接触を避ける	1) 動物の感染症(編集:清水他、近代出版) 2) 神山恒夫、山田章雄編 動物由来感染症 真興文芸(株)医書出版部 2003
③ 牛カンピロバクター症	牛 水牛	<i>Campylobacter fetus</i>	牛カンピロバクター症は、牛の流産や不妊症といった繁殖障害が主にみられる。牛カンピロバクター症による流産は胎齢5~7ヶ月の妊娠中期に集中してみられる。また、めん羊の流産の原因となることもある。牛カンピロバクター症の病原体はCampylobacter fetus、ラセン状に彎曲したグラム陰性桿菌で、大きさは0.2~0.5×0.5~5.0µm、鞭毛を有し活発なスクリュー運動を行う。牛、水牛、羊の不妊症や流産の原因となる。この菌の培養には血液や血清を必要とし、特別な微好気下(O2 5%, CO2 10%, N2 85%)でないといと本菌の発育がみられない。	原因菌の培養検査の他に、糞生では糞液中の凝集を測定する膠液凝集反応が用いられている。また、雄牛で液の蛍光抗体法による検査が行われている。牛カンピロバクター症は保菌牛の糞尿が原因とされている。	近年では、発生は早くなつて、2000年1月北海道で流産胎仔からCampylobacter fetus subsp. fetus が分離され本症と確認された。	生殖器、腸管	食品媒介性	鎮痛薬、抗生剤(エリスロマイシン、シプロフロキサシン)投与	個人衛生の徹底	1) 動物衛生研究所ホームページ 2) 動物の感染症(編集:清水他、近代出版) 3) Handbook of Zoonoses, 2nd ED. Bacterial, Chlamydial, and Mycotic, CRC Press
④ トリコモナス病	牛 水牛	<i>Trichomonas foetus</i>	鞭毛虫類であるトリコモナス原虫は、約10~25×3~15µmの紡錘形をなし、生殖器官を形成する。感染牛牛からの汚染液やまれに感染した人工授精器具を介して感染し、約3日後にカタル性膣炎を引き起こす。また1~16週間の流産を引き起こす。雄牛ではほとんど無症状である。	急性期には生殖器結核、流産例では胎子胃内容等から、顕微鏡下で原虫を検出。鏡が少くない場合には、遠心や培養後、確認。抗体検査も報告されているが、わが国には一般的には用いられない。	世界的に分布するが、人工授精の普及した国ではほとんど発生はない。	生殖器、胎子	ヒトへの感染例の報告は見あたらない。			動物の感染症(編集:清水他、近代出版)

◎:新たに検討が必要
○:部分廃棄の妥当性について検討

<p>家畜伝染病等の種類 ネオスボラ症</p>	<p>家畜の種類 牛 水牛</p>	<p>病原体 <i>Neospora caninum</i></p>	<p>概要 病原菌は牛を感染主とする。妊娠牛が感染すると垂直感染を起こし、流産や新生子牛の神経症状を引き起こす。しかし大多数の子牛は不顕性感染のまま成長し、シストを長期間隔持つ。ワクチンも有効な治療薬もない。飼料の汚染防止と抗体陽性牛の淘汰で対応する。</p>	<p>診断法 間接蛍光抗体法</p>	<p>発生状況 1989年以降、多数の国で発生が報告され、日本でも1991年以降発生が相次いでいる。</p>	<p>体内分布 タキソイドは多臓器で増殖。不顕性感染の牛子牛は、シストを中枢神経系等に長期間保持。</p>	<p>ヒトへの感染経路 ヒトの感染例の報告は見あたらない。</p>	<p>治療法 予防法</p>	<p>参考文献 動物の感染症(編) 葉：清水池、近代出版</p>
<p>牛ハエ幼虫症</p>	<p>牛 水牛</p>	<p><i>Hypoderma bovis</i> <i>H. lineatum</i></p>	<p>ヒツジハエ科ウツバエ属のウツバエ(<i>H. bovis</i>)とキスジウツバエ(<i>H. lineatum</i>)が原因。人も宿主となる。孵化した幼虫は皮膚を通過して体内移行。その後背部皮下で特有の腫瘍を形成し、体外脱出してエサ中で蛹となり羽化する。皮膚の侵入や体内移行時に疼痛を伴い、背髄腔内に卵や幼虫、皮膚の経済的価値損失や乳量、体重の減少も顕著。腫瘍中の幼虫を抽出駆除したり、マクロライド系抗生物質や殺虫剤による治療も有効。</p>	<p>腫瘍からの抽出幼虫の形態学的診断、ELISA、皮内反応、間接HA反応、電気泳動法など。</p>	<p>2種のハエは北半球に広く分布するが、日本では常在しない。しかし、輸入牛の持ち込みにより、日本でも発生はある。</p>	<p>幼虫は体内を移行。侵入後1〜2カ月後には、背柱周辺組織や食道粘膜下層で成虫が産卵する。3齢幼虫は背部皮下に腫瘍を形成して体外脱出を待つ。</p>	<p>ヒトの感染例の報告は見あたらない。</p>	<p>動物の感染症(編) 葉：清水池、近代出版</p>	
<p>ニバウイルス感染症</p>	<p>馬、豚 いのしし</p>	<p><i>Nipah virus</i></p>	<p>ニバウイルスはパラミコウイルス科ハラミコウイルス亜科ヘニバウイルス属に分類されるマイナスイオンRNAウイルスで、エンペロープを有している。2000年2月4日に屋外感染病に指定された。豚から豚へは感染の際の体液などから接触によって感染。または糞便感染で伝播する。人やヒトの宿主はフルーゴウモリ(<i>Megachiroptera</i>)と考えられている。豚での潜伏期間は7日から14日である。臨床症状では、母豚に主として神経症状が観察され、肥育豚では呼吸器症状が目立つ。また、流産の発生もある。致死率は2〜3%である。組織学的には、肺の血管内皮細胞に多角巨細胞の形成と出血を伴う顕微鏡的変化が観察される。</p>	<p>ウイルス分離、PCR</p>	<p>マレーシア、シンガポール、バンダラア ティッシュ、カンボジア</p>	<p>不顕性感染率9〜15%、潜伏期2週間以内(4日〜2ヶ月)。急性脳炎(発熱、頭痛、眩暈、嘔吐、意識障害、脳幹障害)、呼吸器症状、血小球減少症、白血球減少症、死亡率40%</p>	<p>動物衛生研究所 ホームページ 2)神山恒夫、山田章雄編 動物由来感染症 真興交遊(株)医書出版部 2003</p>		
<p>馬インフルエンザ</p>	<p>馬</p>	<p><i>Influenzavirus A</i></p>	<p>ウマインフルエンザウイルスはオルソミクソウイルス科インフルエンザウイルスA属に分類されるマイナスイオンRNAウイルスで遺伝子は8分節に分かれている。エンペロープを有する。ウマに感染する1型、2型のウマインフルエンザウイルスはそれぞれH7N7およびH3N8の亜型である。感染馬は1〜3日の潜伏期間で40〜41°Cの高熱を呈し、激しい乾性の咳とともに多量の水性の鼻汁を呈する。二次感染がなされれば2〜3週間回復する。咳などで排泄されたウイルスを含む飛沫によって伝播する。常在地のヨーロッパや米国では季節に限定なく発生し、不顕性感染馬が感染源となっている。</p>	<p>ウマインフルエンザ1型ウイルスは1956年ブラハで分離されたが、1980年から流行していない。ウマインフルエンザ2型ウイルスは1963年米国のマイアミで分離され、現在でもオーストラリア、ニュージーランド、アイスランドを除く全世界で流行している。わが国では1971年〜1972年の冬に2型ウイルスが大流行し、全国各地でおよそ7000頭が感染した。その感染率は低い。</p>	<p>呼吸器</p>	<p>ヒトの感染例の報告は見あたらない。</p>	<p>動物衛生研究所 ホームページ 2)神山恒夫、山田章雄編 動物由来感染症 真興交遊(株)医書出版部 2003</p>		

◎：新たに検討が必要
○：部分廃棄の妥当性について検討

家畜伝染病等の種類	家畜の種類	病原体	概要	診断法	発生状況	体内分布	ヒトへの感染経路	治療法	予防法	参考文献	
◎ 馬ウイルス性動脈炎	馬	Equine viral arteritis virus	馬動脈炎ウイルスはNidovirales: Arterivirus, Arterivirus, 馬属のみに感染。生殖器感染あるいは呼吸器感染し、雌馬では生殖器に持続感染してキャリアになることがある。3〜14日の潜伏期の後、感冒様症状、結膜炎、流産など多様な症状を示す。ワクチンが有効。	病理診断のほか、鼻汁、尿、精液、流産胎盤、胎子組織からウイルス分離。RT-PCRも補助的に使用可。マイクロ中和子テスト、CF反応、ELISAも可能。	世界的に分布。1997年型は1966〜1997年の日高地方での大発生後、日本各地で発生。	呼吸器ならびに生殖器、血中、胎子や胎盤も。	ヒトへの感染例の報告は見当たらない。			動物の感染症(編集:清水他、近代出版)	
◎ 馬鼻肺炎	馬	Equine herpes virus 1, 4	2つの原因ウイルスによる疾病の総称。産乳子馬に鼻肺炎を起こすほか、妊娠馬が妊娠中期以降に感染すると流産を起こすこともある。ウシウイルスに対する有効なワクチンや治療薬はないが、鼻肺炎の二次感染を防ぐには抗生物質が有効。	鼻汁からのウイルス分離、分離ウイルスからの抽出DNAの制限酵素消化後のPCRでの確認。血清学検査、中核アッセイ、ELISA。	世界的に分布。1997年型は1966〜1997年の日高地方での大発生後、日本各地で発生。	上気道で増殖するが、血液を介して胎子へ垂直感染。胎子では多臓器からウイルス分離可能。	ヒトへの感染例の報告は見当たらない。			動物の感染症(編集:清水他、近代出版)	
◎ 馬モルビリウイルス肺炎	馬	Hendra virus	ヘンドラウイルスはバラムコウウイルス科バラムコウウイルス亜科ヘンバウイルス属に分類されるマイナスで1本鎖RNAウイルスで、エンペローを保有している。感染性動物は馬であるが、ヒトも感染する人獣共通ウイルスである。自然宿主はオーストラリア原産のオオコウモリ(植物食性)であり、20%以上のオオコウモリがこのウイルスに対する抗体をもっていた。またハイガンコウモリからウイルスも分離されている。馬以外では、ネコとモルモットが実験的には感染するが、ネコの自然感染例はない。コウモリのウイルスを含む尿から馬が感染したと考えられる。馬の致死率は67%である。発熱が主な臨床症状である。胸膈下にリンパ管の拡張を伴う肺炎の浮腫が特徴的な肉腫病変である。組織学的には、肺の血管内皮細胞に多角巨細胞の形成と出血を伴う間質性肺炎が観察される。	診断法にはウイルス分離、中和抗体の測定、間接免疫蛍光法によるウイルス抗原の証明、PCRによるウイルス遺伝子の検出などがある。わが国にもモルモットコウモリ(ウキウコウモリ)がウキウコウモリ(ウキウモリ)が生息しており本疾患の侵入の可能性もある。	本病はオーストラリア、アジアでのみ発生した。1994年9月クィーンズランド州マックアイとそれ以降に800km離れたニューサウスウェールズ州のプリースベーンで9月に発生が報告されたが、その後には発生はなされていない。マツカイの発生では馬2頭とヒト1名が死亡した。プリースベーンのヘンドラ既発舎の発生では馬21頭が発症し、14頭が死亡した。また調教師と厩師が死亡した。	全身	ヒトへの感染例の報告は見当たらない。				1)動物衛生研究所ホームページ 2)神山恒夫、山田章雄編 動物由来感染症 真興交易(株)医書出版部 2003
◎ 野克病	馬、めん羊、豚、いのしし、兎	Francisella tularensis	家畜の種類に記載されている動物種のほか、牛、犬、猫、げっ歯類、鳥類、そして人も含む、多くの動物を宿主とする。並列により病原性が異なる。世界各地で発生し、原因菌は水、土壌、獣皮、死体などに長期間生存。昆虫の刺刺、汚染飛沫の吸入、汚染水や汚染飼料の摂取、最害との直接接点などにより感染。一樹に慢性に経過するが、高い致死率を示すこともある。発熱、下痢、衰弱を伴う場合もある。	血液、肝臓、脾臓、骨髄からの病原体の分離、臓器スメアや組織切片中の抗原の蛍光抗体法による検出、沈降反応、血清の試験管内凝集反応、ELISAなど。	世界各地で発生。	全身	感染動物との接触、剥皮、肉の調理、不足動物(マダニ、アブラムシ)による刺咬、水系感染、土壌感染、気道感染も報告されている。	硫酸ストレプトマイシンが有効とする。	生ワクチン(LVS)があるが、日本では承認されていない。	1)動物の感染症(編集:清水他、近代出版) 2)神山恒夫、山田章雄編 動物由来感染症 真興交易(株)医書出版部 2003	
◎ 馬伝染性子宮炎	馬	Taylorella equigenitalis	雌馬のみで発症。発症後馬属馬との交配により感染。14日間の潜伏期の後、子宮内膜炎、子宮頸管炎、膈膜炎などを発症し、受胎率低下や流産を起こす。抗生物質や消毒剤による局所療法が有効。1977年にイギリスで初発後、多くの国で発生。日本では1980年から発生例の報告。	生殖器あるいは流出液のスメアでの差染染色培養。	本病はオーストラリア、アジアでのみ発生した。1994年9月クィーンズランド州マックアイとそれ以降に800km離れたニューサウスウェールズ州のプリースベーンで9月に発生が報告されたが、その後には発生はなされていない。マツカイの発生では馬2頭とヒト1名が死亡した。プリースベーンのヘンドラ既発舎の発生では馬21頭が発症し、14頭が死亡した。また調教師と厩師が死亡した。	全身	ヒトへの感染例の報告は見当たらない。			動物の感染症(編集:清水他、近代出版)	

◎ 新たに検討が必要
○ 部分廃棄の妥当性について検討

家畜伝染病等の種類	家畜の種類	病原体	概要	診断法	発生状況	体内分布	ヒトの疾患	ヒトへの感染経路	治療法	予防法	参考文献
◎ 馬バラチフス	馬	<i>Salmonella enterica</i> subsp <i>enterica</i>	<i>Salmonella Abortusequii</i> は酸化水素非産生性、クエン酸塩を利用しないなど他の血清型と異なる性状を示す。馬への感染は汚染飼料や牧草などを介した経口感染であり、生産牧場における集団的発生が多い。	生産産児では胃内容物、膿、流産胎では胎膜から他の病原体の分離。市販の診断用凝集抗原を用いた血清診断。	アフリカおよびアジアで発生がある。日本国内では、北海道の釧路県に感染の流行が見られる。	全身に及び、腸管やリンパ系などが、胎盤や精液などの感染への媒介者である。	急性胃腸炎、敗血症、病巣感染	経口感染	抗菌剤投与		1) 動物衛生研究所ホームページ 2) 神山恒夫、山田章博編、動物由来感染症 真興文庫 (株) 医学出版社 2003
◎ 小反刍獣疫	めん羊、山羊 しか	Peste-des-petits-ruminants virus	小反刍獣疫ウイルスはバクテリオファグウイルス科バクテリオウイルス亜科モルビルウイルス属の1本鎖RNAウイルスである。めん羊、山羊の偶蹄類に感染し、動物の分泌、排泄物が感染源となっており、密な接触により伝播する。山羊の致死率は高く(95%)に達することもあるが、めん羊はやや低い。牛、豚は感染するが発症せず、病気を伝播しない。感染後は5~6日の潜伏期を経て、発熱、食欲不振、鼻鏡の乾燥、口、鼻粘膜の充血、腫瘍、肺炎、下痢、前蹄などの症状を呈し、発症動物からは悪臭が生じる。発熱が認められた場合、急性型は4~7日、亜急性型は2~7週で死亡することが多い。持続感染はしない。	牛疫ウイルスはめん羊、山羊に感染し、類似した症状を誘発するので、個別診断が極めて重要である。診断法としては、毒素ゲル内阻凝反応によるウイルス抗原の検出、尿、血液などを材料としてヒトウイルス分離、PCR法を用いたウイルスPCR法を用いたウイルス特異的遺伝子の検出などがある。	西アフリカ、中央アジア、インドに分布	全身	ヒトの感染例の報告は見当たらない。				動物の感染症(編) 薬: 清水池、近代出版
◎ 伝染性膿疱性皮膚炎	めん羊、山羊 しか	Orf virus	伝染性膿疱性皮膚炎(オルフ)ウイルスは、ポックスウイルス科ポックスウイルス属の2本鎖DNAウイルスである。ビリオンは卵円形、220-300 nm x 140-170 nm である。ヒツジおよびウシ由来の細胞にのみ一度分離してしまえば、ウイルスは非常に安定である。ウイルス細胞などでも増殖する。竹藪状のウイルス粒子は130-150 kbp、GC含量はおおよそ68%である。宿主のウシ、羊、山羊、偶蹄類ウイルスと血清学的に交差する。藍舌病の対象動物は、めん羊、山羊である。接触感染により伝播する。ヒツジやウシの口唇部、顔面、耳介部、四肢、乳頭などに丘疹、水疱を形成する。まれに膿疱、潰瘍まで進行する。	診断法として、ウイルス分離、電子顕微鏡によるウイルス観察、毒素ゲル内阻凝試験による抗体検出を行う。ウイルスは古くから知られており、文献的には1780年の直接接吻とともに、病変部が接吻した偶蹄類動物の分泌物が感染源となることがある。偶蹄類動物の感染の防止を行う。	世界的に分布し、若いヒツジやヤギに多く見られる。日本でも発生している。ヒツジ飼いのあいで古くから知られており、文献的には1780年代頃から記録がある。	子ヒツジへの人工授乳時や、咬傷、汚染器具、土壌などから直接感染する	支持療法のみ	支持療法のみ			1) 動物衛生研究所 2) 動物の感染症(編) 薬: 清水池、近代出版
◎ ナイロビ羊病	めん羊、山羊	Nairobi sheep disease virus (Nairovirus) **	ナイロビ羊病ウイルスはブニヤウイルス科ナイロウイルス属に属する。めん羊と山羊に非常に病原性が高い。ため、多くの国は本ウイルスの持ち込みを禁止し、バイオセーフティーレベル4に指定している。すべてのステータスのマダニ(Rhinocentaurus appendiculatus)によって伝播される。ウイルスの病原性動物は不明。	臨床症状(発熱、出血性肺炎、衰弱を示す)、妊娠死亡、または肉眼的病理解剖から診断は可能。組織培養によるウイルス分離と分離ウイルスの免疫学的同定により確認できる。	西アフリカに地方病として分布	羊、山羊	非常にまれであり軽症。顕性感染もある。	マダニ刺咬	支持療法のみ	マダニ咬傷防止のための家畜の薬浴、羊用のワクチンが有効。	動物の感染症(編) 薬: 清水池、近代出版

◎: 新たに検討が必要
○: 部分廃棄の妥当性について検討

家畜伝染病等の種類	家畜の種類	病原体	概要	診断法	発生状況	体内分布	ヒトへの感染経路	治療法	予防法	参考文献
① マエディ・ビスナ	めん羊	Maedi-visna virus	マエディ・ビスナウイルスはシトクロウウイルス科レンチウイルス亜科に属する。本ウイルスは単球、マクロファージに嗜好性を示す。羊のスロウウイルス感染症に入れられており、潜伏期は約2年ほど。慢性の進行性肺炎と進行性脳脊髄炎という2つの異なる病態を起す。ウイルスの伝播は主に感染母羊から初乳、乳汁を通じての垂直感染だが、呼吸器感染や胎内感染の可能性もある。	ウイルスのp25とgp135を用いたゲル内沈降反応、ELISA、ウエスタンブロット、PCRによる遺伝子検出	1937年ごろアラスラントで報告。世界的にはオーストラリア、ニュージーランド以外の主な羊の生産国で発生している。日本での発生は不明。		ヒトへの感染報告は見当たらない。			動物の感染症(編集・澤水他、近代出版)
② 伝染性無乳症	めん羊、山羊	<i>Mycoplasma agalactiae</i> <i>M. mycoides</i> subsp. <i>mycoides</i> <i>M. capricolum</i>	ヤギ、ヒツジのマイコプラズマによる疾患で、発熱、発瘧、腫血症に引き続く関節炎、角結膜炎、腱では乳房炎、無乳症を呈する。	菌分離	地中海沿岸、アジア、北アフリカ、インド、パキスタン、南アフリカ、オーストラリア、南米	血液、尿、肝臓、脾臓、関節液	ヒトの感染例の報告は見当たらない。			動物衛生研究所 ホームページ
③ 流行性羊流産	めん羊	<i>Chlamydia abortus</i>	以前はChlamydia psittaciに分類されていた。初産の妊娠末期に多発。流産、死産の胎仔・胎盤などに含まれる菌が飼料・水を介して伝播する。	塗抹標本における菌の検出、分離	英国、欧州、北米、ニュージーランド、日本にはない	胎仔、胎盤	エアロゾル	テトラサイクリン		動物衛生研究所 ホームページ
④ 疥癬(ヒゼンダニ症)	めん羊	<i>Sarcoptes ovis</i> <i>Sarcoptes scabiei</i>	原因である疥癬は無乳門類、キウウセンダニ科とヒゼンダニ科に属する微細なダニである。このダニは世界に広く分布し、哺乳類や鳥類に寄生している。主な伝播は病畜との接触によるが、種によってその生態や寄生部位が異なるために、症状や肉眼所見は様々ではない。ある種のダニは皮膚に穿孔し皮膚損傷を伴うが共通した症状は強度な痒感である。重篤なものはめん羊のP ovisによる疥癬で、病状が進行すると剥離、貧血、浮腫から悪液質に陥る。また、ヒトへの寄生(Sarcoptes)や一時寄生(N.gati)も報告され、2002年4月栃木県の病院で40人の発生があった。届出伝染病で、対象動物はめん羊である。	ダニの同定	世界各地で発生している。日本では1934年以降本邦の届出はない。	皮膚	直接接触	外用薬塗布		動物衛生研究所 ホームページ

家畜伝染病等の種類	家畜の種類	病原体	概要	診断法	発生状況	体内分布	ヒトへの感染経路	治療法	予防法	参考文献
◎ 山羊関節炎・脳脊髄炎	山羊	Caprine arthritis encephalomyelitis virus	レトロウイルス科、レンデウイルス属、めん羊/山羊レンデウイルス群に分類される。本ウイルスは、山羊およびめん羊に感染し、マクロファージを標的細胞とする。その他の動物に感染したという報告はない。山羊は年齢、品種に関係なく本ウイルスに感染する。成獣に感染する山羊は、発症一般的に軽微である。発症は進行性で進行は遅やかである。初期症状として、主に手相関節の腫脹や歩行異常が観察され、最終的には歩行困難、徐々に増し、最終的には歩行困難、立ち不能となる。新生仔や6ヶ月以下の幼羊では、脳脊髄炎や肺炎を発症することがあり、その場合は慢性の進行は比較的早い。成獣では慢性の関節炎以外には乳房炎や、希に肺炎や副腎炎を起す。発症率は低く、成獣の関節炎発症率は10%以下と考えられている。組織病変としては、幼弱山羊の脳脊髄炎例では、白質に限局した脱髄性の星状細胞浸潤と脱髄が認められる。成山羊の関節炎例では、非化膿性増殖性関節炎、膿瘍なリンパ球浸潤を伴った間質性肺炎およびリンパ球浸潤が特徴的病変である。	感染山羊の診断法としては、ウイルスエンベロープを構成する糖蛋白質を抗原として用いた競争ELISAによる沈降試験やELISAによる抗体検出、家畜白血球に存在するウイルス遺伝子をPCRにより検出する遺伝子診断が行われている。	米国、欧州、オーストラリアなど各国で発生が報告されており、世界各国に浸透している。日本でも2002年8月に本疾病の発生が報告された。	マクロファージ、リン、関節	ヒトの感染例の報告は見当たらない。			動物衛生研究所ホームページ
◎ 山羊伝染性胸腺肺炎	山羊	Mycoplasma capricolicum subsp. capripneumoniae	山羊伝染性胸腺肺炎の原因菌はマイコプラズマ・カプリコリウム、至種カプリニューモニエである。しかし、山羊の病変からマイコプラズマの分離と同一性は報告されておらず、山羊の急性の胸腺肺炎で、急性の伝染性肺炎で発熱、咳、呼吸器障害がみられ、死亡率が高い。	ELISA、PCR	本種は赤道以北のアフリカ、中近東、アジアに発生し、山羊に多大の被害を与えている。	気管、肺	ヒトの感染例の報告は見当たらない。			動物衛生研究所ホームページ
◎ オーエスキ一病	豚いのしし	Pseudorabies virus	アルファヘルペス亜科、パリソウイルス属、プタヘルペスウイルス11による。本来の宿主は豚のいのししである。豚、生、馬(まれ)、めん羊、山羊、しか、家畜などの野生動物に自然感染が起こる。多くの野生動物に自然感染が起こる。豚以外の動物は感染するとそう痒を伴う神経症状を示しほとんどもが死亡する。これらの感染動物は感染源にならない。宿主は豚である。感染源は、若齢な豚ほど致死率が高く、生後2週齢では神経症状を示し100%が死亡する。感染肥育豚では、肺炎や死重不良がみられることもあるが、このウイルスは油酸感染ではほとんどの肥育、繁殖豚は不顕性感染である。初期感染は、約50%に死滅し、唾液など感染する。繁殖豚から鼻汁、唾液などに大量に排泄されたウイルスは、感染と直接関係するいは間接的に接触して経気道あるいは経口的に伝播する。また、エーローノルによる空気伝播も起こる。感染回復豚ではウイルスは三叉神経節等に潜伏感染する。分娩、輸送などのストレスにより感染回復豚はウイルスを再排泄し、感染源となる。	豚の凍結切片を蛍光染色し、ウイルス特異抗体を検出して診断する。ウイルス分離も容易である。	1981年に山形県で初発例が山形県で発生した。1988年には、約1万頭の発生が報告された。1991年に野野村町で発生した。1998年、ワクチンが認められ、発生頭数は減少したが、本病汚染市町数は減少していない。	扁桃、咽頭、粘膜、脊髄、白血球、胎盤	ヒトの感染例の報告は見当たらない。			動物衛生研究所ホームページ

◎：新たに検討が必要
○：部分廃棄の妥当性について検討

<p>◎ 家畜伝染病等の種類 伝染性胃腸炎</p>	<p>家畜の種類 豚いのしし</p>	<p>病原体 Transmissible gastroenteritis virus</p>	<p>概要 豚伝染性胃腸炎ウイルスはコロナウイルス科コロナウイルス属に分類される。エンバローブを保有している。豚呼吸器コロナウイルスは本ウイルスの遺伝子が一部欠損したウイルスであり、通常の手法では本ウイルスと鑑別できない。しかし同ような病態を引き起こすブタコロナウイルスである豚流行性下痢ウイルスとは抗原的・免疫学的に異なる。感染性は豚に、直接あるいは間接的に接触して経口または経鼻感染する。感染回復後にウイルスが侵入する。発病は年齢を問わず100%である。発生の気温変化の激しい季節に発生が多い。幼豚は死亡率が高く、7日齢以下では100%が死亡する。水様性下痢、嘔吐、脱水が主な臨床症状である。小腸絨毛の変縮が特徴的な病変である。</p>	<p>診断法 小腸の凍結切片を蛍光抗体で染色、あるいはホルマリン固定パラフィン切片を免疫染色してウイルス抗原を検出する。下痢便を材料にウイルス分離を行う。</p>	<p>発生状況 わが国では、1956年に初めて発生した。1971年以降1987年まで約2千頭から約6万8千頭の発生があった。1991年から1995年の発生は激減していたが、1996年から1999年には約8千頭から約1万頭の発生が報告されている。</p>	<p>体内分布 胃、腸粘膜上皮</p>	<p>ヒトへの感染経路 あたらぬ。</p>	<p>治療法</p>	<p>予防法</p>	<p>参考文献 動物衛生研究所ホームページ</p>
<p>◎ 豚エンテロウイルス性脳脊髄炎</p>	<p>豚いのしし</p>	<p>Teschovirus Porcine enterovirus</p>	<p>概要 ロタエンテロウイルス(PTV)、ブタエンテロウイルス-A、-B(PEV-A、PEV-B)は、それぞれコロナウイルス科テロウイルス属に分類される。ブタエンテロウイルスはRNAウイルスである。かつて、これらウイルスは一括してブタエンテロウイルス血清型1型~13型(PEV-1~13)として分類されていたが、遺伝学的解析により上記3群に再分類されることが明らかになった。再分類されたウイルスはそれぞれ特徴のあるCPEを起こす。</p>	<p>診断法 PTV/PEVは無症状ブタの糞便・腸粘膜等から高率に分離されるため、本病の診断は、脳脊髄液や血清の有意な上昇、病理組織学的な観察などから総合的になされる必要がある。</p>	<p>発生状況 これまで、旧分類PEV-1の一部病原株のみが、本病の原因ウイルスと考えられてきたが、わが国では神経症状を呈するブタの脳脊髄からこれら株が分離されたという報告はない。しかし、他の血清型株の分離については、複数報告されている。</p>	<p>体内分布 扁桃、腸管、脳神経組織</p>	<p>ヒトへの感染経路 あたらぬ。</p>	<p>治療法</p>	<p>予防法</p>	<p>参考文献 動物衛生研究所ホームページ</p>
<p>◎ 豚繁殖・呼吸器管症候群</p>	<p>豚いのしし</p>	<p>PRRS virus (Arterivirus)</p>	<p>概要 豚繁殖・呼吸器管症候群ウイルスはアルテリウイルス科アルテリウイルス属に分類される。ブタエンバローブを保有している。このウイルスは変異しやすいのが特徴である。感染動物は伝播経路であるが、空気伝播や糞液伝播も起こる。感染豚は感染後長期間ウイルスを排泄するキャリアーになる。妊娠後期の感染では、感染豚が起る。哺乳豚および育成豚に感染すると間質性肺炎を主病変とする呼吸器管症候群が発生し、二次感染で死亡率も高くなる。</p>	<p>診断法 感染豚や胎子の血清、肺などを分離材料としてウイルスを分離する。胎子ではウイルス分離が困難な場合もあり、RT-PCR法でウイルス遺伝子を検出して診断する。</p>	<p>発生状況 この疾病は1987年に米国で初めて報告された。ヨーロッパでも1990年から発生した。1991年に原因ウイルスがフランス中央獣医学研究所で分離された。わが国でも1993年にヘコ豚と名付けられた新しい腫式呼吸を示す豚から本ウイルスが分離された。この疾病の存在が確認された。その後、1990年代後半にはわが国に侵入しており、現在では常在化し、不顕性感染も多い。</p>	<p>体内分布 肺、脾臓、リンパ節、血液</p>	<p>ヒトへの感染経路 あたらぬ。</p>	<p>治療法</p>	<p>予防法</p>	<p>参考文献 動物衛生研究所ホームページ</p>

◎：新たに検討が必要
○：部分疾患の妥当性について検討

家畜伝染病等の種類	家畜の種類	病原体	概要	診断法	発生状況	体内分布	ヒトへの感染経路	治療法	予防法	参考文献
① 豚水疱疹	豚いのしし	Vesicular exanthema virus (Vesivirus)	豚水疱疹ウイルスはカリシウイルス科のVesivirus属の、エンベロープを持たないプラスで1本鎖RNAを有する直徑約35-39nmの小型ウイルスである。pHに対しては塩抗性が強い。本ウイルスには13の血清型が報告されている。本ウイルスはアシカから分離された。サンミゲル島では海獣(アシカ等)とも推測される。自然宿主は豚、牛、めん羊及び山羊には感染しない。潜伏期間18~72時間で口唇部、蹄部の水疱形成を特徴とする口蹄疫と区別できない疾病を起す。ウイルスに汚染された豚舎を畜も豚舎の給与によって、豚り嚙はどから伝播する。	水疱内容物あるいは水疱上皮からのウイルス分離、電子顕微鏡観察	本病は、1932年から1986年の南米(カリフォルニア州)で流行したのと、1955年にアイスランドの米軍キャンプで発生した。加齢処理した豚を飼料化する法を飼料化と感染経路の発見により現在では完全に根絶され、世界中に存在しない。	鼻、口腔、舌、口唇、蹄、肛門、蹄冠、乳頭	ヒトへの感染例の報告は見あたらない。			動物衛生研究所 ホームページ
② 豚流行性下痢	豚いのしし	Porcine endemic diarrhoea virus (Coronaviridae)	豚流行性下痢ウイルスはコロナウイルス科コロナウイルス属に分類されるプラスで一本鎖のRNAウイルスで、エンベロープを有している。豚伝染性胃腸炎ウイルスとは抗原的共通性はない。感染動物は豚、いのししである。真口感染する。本病が初めて報告されたヨーロッパでは、糞尿、糞尿に感染した一過性の下痢を起すのみで本病は問題視されていない。しかし、韓国やわが国では、豚伝染性胃腸炎ウイルスと同様に哺乳豚に致死率の高い急性下痢症の原因ウイルスとして注目され、1996年10月に届け出た疾病に指定された。冬季に発生が多く、水溶性下痢、脱水が主な臨床症状である。小腸絨毛の変縮が特徴的の病変である。	小腸の凍結切片を蛍光抗体で染色。あるいはホルマリン固定/パラフィン切片を免疫染色してウイルス抗原を検出する	わが国では、1980年代前半に本病を疑う豚の下痢症が多発していた。その後、1993年から、哺乳豚に致死率の高い下痢症が発生するようになった。1996年には本病により哺乳豚約4万頭が死亡し、その致死率は70%にも及んだ。	小腸粘膜上皮	ヒトへの感染例の報告は見あたらない。			動物衛生研究所 ホームページ
③ 萎縮性鼻炎	豚いのしし	<i>Bordetella bronchiseptica</i> <i>Pasturella multocida</i>	英豚を有し、皮膚腐死菌素産生性の <i>Bordetella bronchiseptica</i> 相菌が単独、あるいは菌素産生性の <i>Pasturella multocida</i> (菌素抗原-AおよびD型) が重複感染することで生じる。鼻甲介の腫脹を主徴とする豚の疾病である。本病はマイコプラズマ肺炎および豚胸膜炎とも生じる。鼻甲介の腫脹は高く、発育遅延や飼料利用率低下などの経済的損失を招く。本病原性は免疫を中心とした直接接吻や飛沫感染による。子豚では特に発症率が高い。6週齢以降の豚では感染してもほとんど発症しない。一方で、混合感染では16週齢の豚でも発症することがある。初期症状はくしゃみ、流涙、水性性鼻汁などであるが、鼻汁は次第に粘膿性を増し、眼下三日月状部には泥や膿液が滲で体毛に付着し、「アイハッチ」に呼ばれる特徴的な黒い斑点を形成する。その後、上顎の発育遅延、前歯の不正咬合、更に腫脹すると鼻甲介骨の萎縮を引き起こす。鼻病例では「鼻曲がり」や「伸づら」となることもある。	鼻腔拭い液より選択培養を行うが、 <i>B. bronchiseptica</i> は成豚に比べて感度が低下する。培養で、群診断として若齢豚を検査に供するほうがよい。 <i>P. multocida</i> については、菌素産生の有無を確認する。血清診断としては相菌ホルマリン死菌液を抗原とした試験管内凝集反応により行うが、菌素産生性 <i>P. multocida</i> の血清診断法は実用化されていない。	世界各地で発生している。日本でも発生は多く、2001年度は豚舎11戸より45匹が陽性豚として報告されている。	鼻腔、扁桃、気管支	豚との接触	抗生剤投与		1) 動物の感染症 (編集:清水也、近代出版) 2) 動物衛生研究所 ホームページ 3) 神山恒夫、山田章雄編 動物由来感染症 真興文芸 (株) 医書出版部 2003 4) Berkelman R. L. Human Illness Associated with Use of Veterinary Vaccines. Clin. Infect. Dis. 37, 407, 2003

◎ 新たに検討が必要
○ 部分読書の妥当性について検討

家畜伝染病等の種類	豚	家畜の種類	豚	病原体	<i>Brachyspira hyodysenteriae</i>	概要	豚赤痢は <i>Brachyspira hyodysenteriae</i> による結核下痢便を特徴とする急性あるいは慢性の豚の大腸炎である。病原体は長さ7-10µm x 幅0.3-0.4µmの運動性を持つらせん状を示すグラム陰性の機軸性菌である。菌体は遊泳の外被膜で包まれ、菌体の外被膜間に7-14本の鞭毛状の軸糸がみられ、活発な運動性を示す。病原因子としては溶血毒素及びLPSが知られている。	診断法	赤痢症状を呈する疾病としては、サルモネラ症、壊死性腸炎、増殖性腸炎、鞭虫症、コクシジウム症などがあげられる。これらの疾病との感染症鑑別には、β溶血性の <i>B. hyodysenteriae</i> が分離されるか否かが決定的であり、高い精度での分離培養と同定が必要となる。血清学的診断法についても、いくつかの方法が報告されているが、血清型の多様性との関係で実用的診断価値は低い。	発生状況	日本では1950年代から発生がみられ、品種、性別に関係なく発症し、離乳後の豚に多く発生がみられる。	体内分布	病変は大腸に限局し、大腸壁及び腸間質の充血と水腫性肥厚、腸管壁リンパ節の腫脹が著しい。	ヒトへの感染経路		治療法		予防法		参考文献	
-----------	---	-------	---	-----	-----------------------------------	----	--	-----	---	------	---	------	---	----------	--	-----	--	-----	--	------	--

◎

◎:新たに検討が必要
○:部分廃棄の妥当性について検討

<p>家畜伝染病等の種類 鳥インフルエンザ (高病原性鳥インフルエンザを除く。)</p>	<p>家畜の種類 鶏、あひる</p>	<p>病原体 Influenzavirus A</p>	<p>概要 Orthomixovirales科、Influenzavirus type Aウイルスによる。わが国ではH5、H7両形を対象としている。発症は突発的な死亡にはじまり、高い致死率が見られる。肉冠、肉垂および倒卵のチフーセ・出血・腫瘍、顔面の浮腫、産卵低下または停止、神経症状、下痢等が見られる。甚急性の死亡例ではこれら症状を欠く。鶏、ウズラは高い感受性を有し、日齢および季節に関係なく発生し、感染源は発症後1〜2日でもほぼ死亡する。伝播は接触や同居などにより起こる。</p>	<p>診断法 剖検：肺臓、腎臓および筋肉のうっ血、充血および壊死が主要な病変。病理解剖：肺臓、腎臓、心臓、骨格筋、腸、肉芽腫などの水腫、出血、異状死、肉管性細胞浸潤などが認められる。ウイルス分離：動物衛生研究所で分離。同定を行う。分離は気管、肺、脾臓、腎臓、盲腸などを鶏胚、培養細胞へ接種する。同定は抗NDV血清を用いてのNDV否定試験とAIV血清を用いた蛍光抗体法で検出される。</p>	<p>発生状況 日本の発生報告はない。</p>	<p>体内分布 ウイルスは気管、肺、脾臓、腎臓、盲腸などから分離される。</p>	<p>ヒトの疾患 高病原性インフルエンザウイルス(H5、H7亜型)を除くH5N2のウイルスがヒトに感染した報告がある。軽症であり、発熱、のどの痛み、倦怠感、食欲不振、嘔吐、咽頭痛、</p>	<p>治療法 なし</p>	<p>予防法 感染源になる病気の家禽との接触を避ける。ワクチンは未開発。</p>	<p>文献 Bull. Soc. Path. Ex., 89, 287-290, 1996. Vaccine, 20, S77-81, 2002. Lancet, 354, 916, 1999 動物衛生研究所ホームページ</p>
<p>○ 鶏痘</p>	<p>鶏、うずら</p>	<p>Avian pox virus</p>	<p>概要 Poxviridae, Chordopoxvirinae, Avipoxvirusによる。二フトリとウズラの疾患。気管や口腔、食道など粘膜炎が形成される結膜型では接触感染により伝播する。この型の発生は陸地から春に多く発生する。夏にカヤスカガカによる機械的伝播による発生では、皮膚に病変が形成される皮膚型が起る。感染源は黄色の丘疹となり水疱に発展する。急速に融合し、褐色から黒褐色のいぼ状となり、痂皮が形成される。結膜型では儘かに隆起する白濁として始まり、急速に痂が増え融合し黄色の痂膜が形成される。一般に潜伏期間はおよそ4日である。</p>	<p>診断法 一般には発育鶏卵による。二フトリにも細胞培養を用いることも可能。血清学的診断にはゲル内沈降反応が用いられる。</p>	<p>発生状況 世界中で発生を認める。国内では発生数はあまり多くはないが毎年発生を認めている。</p>	<p>体内分布 感染部位の皮膚、口腔粘膜、鼻腔</p>	<p>ヒトの疾患 ヒトの感染例の報告は見あたらない。</p>	<p>治療法 なし</p>	<p>予防法 なし</p>	<p>文献 動物の感染症、近代出版、動物衛生研究所ホームページ</p>
<p>○ 伝染性気管支炎</p>	<p>鶏</p>	<p>Infectious bronchitis virus (IBV)</p>	<p>概要 Coronaviridae, Coronavirus属、IBウイルスによって起こる。鶏のみが罹病。品種、性別、日齢は無関係。大部分が不顕性感染の形をとる。ウイルスは呼吸器、目の結膜から侵入し、呼吸器結膜、腎臓、卵黄腺腫で増殖。潜伏期間は短い、幼雛では呼吸器症状、元気が消失、下痢を呈し2、3日で死亡する例も。回復はするが発育不良をきたし、成長後無産卵となる。中、大雛では一過性の呼吸器症状、下痢を呈する。大雛では産卵開始が遅れる場合も。顕著な呼吸器症状を元気づけず、わずかに産卵率が低下する。高い致死率を伴い、ごく軽い呼吸器症状、強い下痢、産卵率の低下が見られる場合も。</p>	<p>診断法 ウイルス分離、病鶏の呼吸器、卵黄、腎臓の乳剤を8〜10日齢は実質鶏卵の尿膜腔内に接種し、7日後鶏胚の形成を観察。中和テストによりウイルスの同定を行う。血清学：発病時と回復時に、ウイルスを採取し中和抗体価の上昇を調べる。蛍光抗体法、電顕で検出可能。</p>	<p>発生状況 1931年に米国で初の報告。1951年にわが国で初めて報告。非常に強い伝播力を持ち、わが国の鶏群に広く蔓延し現在では全国で存在していると考えられている。</p>	<p>体内分布 呼吸器結膜、眼結膜、腎臓、卵黄、腸管などに分布</p>	<p>ヒトの疾患 ヒトの感染例の報告は見あたらない。</p>	<p>治療法 なし</p>	<p>予防法 なし</p>	<p>文献 家畜疾病総合情報システム、産科伝染病診断指針(平成13年10月日本獣医師会)</p>

◎ 新たに検討が必要
○ 部分廃棄の妥当性について検討

家畜伝染病等の種類	家畜の種類	病原体	概要	診断法	発生状況	体内分布	ヒトの疾患	ヒトへの感染経路	治療法	予防法	文献
○ 家畜伝染病等の種類 伝染性喉頭気管炎	鶏	Infectious laryngotracheitis virus	Hepadnaviridae, Alphaherpesvirinae亜科、ILVウイルスによって起こる。ウイルスは感染部位で増殖し、気管滲出物、鼻汁、涙から排泄される。鶏の品種、系統、性別、日齢による感受性に差はみられない。死亡するものは気温の低い秋〜冬に多い。潜伏期は6〜12日。発病初期には鼻汁の滲出、しゃしゃみ、開口呼吸、呼吸時の雑音(口吐音)を呈す。後期には気管滲出物のために奇声を伴う強い咳をしたり、頭を激しくふったり、取こむことが多い。血液の排泄、暗血もあふる。産卵鶏では産卵率の低下、幼畜籠ではくしゃみや、開口呼吸、結膜炎を示す。	臨床症状: 気管の出血、後期には病変部粘膜のストロクテ染色による急速核内封入体を生み出す。剖検: 喉頭、気管の充血性出血、及びは激しい滲出液による粘液の増重と粘膜の肥厚が見られる。喉頭および気管の内腔には黄白色、血球状の凝塊が見られる。病変組織は上皮細胞の増殖、滲出液による剥離と粘膜固有層に好酸球の浸潤が見られ、この部位に核内封入体と合胞体が見られる。ウイルス分離: 剖検胃腸、腸肝細胞へウイルス抗原を証明する。	1962年大坂で報告。現在では全国に発生し、農場に侵入すると根絶が困難。	喉頭、気管など二部分に、滲出物、鼻汁、涙から排泄される。	ヒトの感染例の報告は見あたらぬ。				家畜伝染病総合情報システム、監視伝染病診断指針(平成13年11月、日本獣医師会)
◎ 伝染性アブリアキウイルス病	鶏	Infectious bursal disease virus (IBDV)	Birnaviridae, Birnavirus属、IBDVウイルスによって起こる。2〜10週齢の鶏に多発する。感染経路は主に経口でF、養リンガ系臓器で増殖し、糞便から排泄される。発病率は高いが、致死率に幅があり、日齢に差がある。発病時は元気が減り、食欲消失し羽毛を逆立ててうずくまる。白色または緑色水様性便、総排泄腔周辺の汚れ、震顫、衰弱、死亡。経過は2〜3日で回復は早い。後遺症として免疫よくせいが起こり、多病を憎悪することも。	剖検: F、養リンガ系臓器から検出。F、養リンガ系臓器を蛍光抗体染色して検出する。ウイルス分離: 本を養リンガ系臓器に接種して胚の死亡、病変出現を見る。血清診断: 凝集、中和テスト、蛍光抗体法で検査する。	1964年より報告あり。1990年頃から非常に高い死亡率が発生し、現在全国的に蔓延している。	フアブリアキウイルス、リンガ系臓器で増殖し、糞便から排出される。	ヒトの感染例の報告は見あたらぬ。				家畜伝染病総合情報システム、監視伝染病診断指針(平成13年12月、日本獣医師会)
◎ 鶏マイコプラズマ病	鶏、七面鳥	<i>Mycoplasma gallisepticum</i> <i>M. synoviae</i>	<i>Mycoplasma gallisepticum</i> , <i>Mycoplasma synoviae</i> によって起こる。季節による感染源に寄らないが、本症の顕在化は呼吸器病の発病誘因が増加する晩秋〜早春にかけて多く見られる。月齢別では産卵開始期の感染が大半。感染は垂直、水平ともに成立し、好発部位は眼下洞、気管、肺、気嚢等の呼吸器、卵管等。感染鶏群は樹体壁が厚く、飼料効率が著しく低下する。本病罹患鶏は関節炎を併発しやすい。感染鶏群は他の微生物の二次感染や生カクテンの投与、飼養条件の悪化によるストレスにより呼吸器病の要因発生と損耗率の急増を招きやすい。清浄な環境で単独感染の場合は無症状のまま経過。IBDN、大腸菌、コリネバクテリウム等の複合感染や鶏舎内エアロゾルの蓄積により症状が発現。著しい鼻汁、開口呼吸、頬部の顕著な腫脹、呼吸困難などが認められる。	臨床症状: 気管の出血、後期には病変部粘膜のストロクテ染色による急速核内封入体を生み出す。剖検: 喉頭、気管の充血性出血、及びは激しい滲出液による粘液の増重と粘膜の肥厚が見られる。喉頭および気管の内腔には黄白色、血球状の凝塊が見られる。病変組織は上皮細胞の増殖、滲出液による剥離と粘膜固有層に好酸球の浸潤が見られ、この部位に核内封入体と合胞体が見られる。ウイルス分離: 剖検胃腸、腸肝細胞へウイルス抗原を証明する。	1952年に初めて分岐(MC)わが国では1962年にMSIは1971年に報告。世界各地で蔓延。	感染初期、中期では眼科病および気嚢に分布。	ヒトの感染例の報告は見あたらぬ。				家畜伝染病総合情報システム、監視伝染病診断指針(平成13年13月、日本獣医師会)

家畜伝染病等の種類	家畜の種類	病原体	概要	診断法	発生状況	体内分布	ヒトの疾患	ヒトへの感染経路	治療法	予防法	文献
◎ ロイコチトゾン病	鶏	<i>Leucocytozoon caulleryi</i>	鳥類に与えられる住血性原虫 (<i>Leucocytozoon sp.</i>) にあつて起こる疾病。通常は二つが幼虫が <i>Gullicoides arekawae</i> によつて媒介される。原虫母体は成虫が吸血することによつて感染している。感染後12日以降症状が現れる。貧血、食欲不振、沈うつ、熱度、体置の減少、発育停止、産卵停止などが見られる。感染の経過は宿主の年齢と感染量によつて左右される。	剖検：皮下、筋肉、肝臓、腎臓、胸腺、脾臓などに点状出血を認める。病理組織：病変組織の血管周囲に巨大な第2代シストの嚢胞が認められる。貧血を起した場合は脾臓も認められる。原虫の検出：感染14～25日で有効。また、軽度の虫血症では検出しにくい。カメグイの存在を確認する。血清診断：シフト由来可溶性抗原、抗体を対象にケル内沈降反応、ELISAで診断する。副濁鶏では早期にわたり抗体が存在するの調査が可能。	日本では、夏(7月～9月)にかけて発生が多い。日本では <i>Leucocytozoon caulleryi</i> によつて起こる鶏の病気が問題。		ヒトの感染例の報告は見あたらない。				家畜伝染病総合情報システム、監報伝染病診断指針(平成13年14月日本獣医師会)
◎ あひる肝炎	あひる	Duck hepatitis virus (Picorna, Astro)	I型：感染率は100%。致死率は1週齢以下で95%。若齢7日齢のみで発症する。成鶏では発症はしない。II型：7日齢のみの感染。致死率は3～6週齢で10～25%、6～14日齢では50%。感染後1～4日後に急激に衰弱し、III型：発生はI型よりまれ。致死率は30%前後。I、III型に罹患したひなはうづまり、横臥して面胸の痙攣を伴って死亡。死亡時に後方反張。II型では下痢、濃い尿糞、排泄物や間接的な条件を呈し、急性重症直後1～2時間以内に見られる。	剖検：肝臓の腫大、点状出血、脾臓は梗状を呈して腫大する。腎臓は充血、腫大する(I、II型)。II型では肝臓の点状出血、腎臓、脾臓の腫大、組織検査：肝細胞の壊死、出血、胆管増生の壊死、出血、胆管の増殖が認められる。診断は肝臓からの特異蛍光抗原の証明とウイルス分離による。乳刺からアストロウイルス1の検出により診断する。	北米、ヨーロッパ、中国、インド、タイで発生。致死率は1～3週齢で50%以下。	ウイルスは肝臓から分離される。	ヒトの感染例の報告は見あたらない。				家畜伝染病総合情報システム、監報伝染病診断指針(平成13年16月日本獣医師会)
◎ あひるウイルス性腸炎	あひる	Duck plague virus	<i>Herpesviridae, Alphaherpesvirinae</i> 亜科に属するウイルスによる。元気がなくなり、食欲不振、運動失調などを呈し、水様性下痢、または出血性下痢を呈し、起立不能となる。死亡した雄の成鳥ではヘニスの露出(伸張)が見られる。	剖検：病理組織学的所見で肝細胞、消化管粘膜上皮細胞の核内封入体の検出。肝臓からのウイルス分離・同定、7日齢経緯芽細胞を用いた中和試験、受身赤血球凝集反応、ELISAによる。		ウイルスは肝臓から分離される。	ヒトの感染例の報告は見あたらない。				

This is an electronic appendix to the paper by Taylor, Latham & Woolhouse, 2001 (Risk factors for human disease emergence). *Phil. Trans. R. Soc. Lond. B* 356, 983–989.

Electronic appendices are refereed with the text. However, no attempt has been made to impose a uniform editorial style on the electronic appendices.

Appendix A List of 1415 species of pathogens causing human disease, divided into bacteria (and rickettsia), fungi, helminths, protozoa and viruses (and prions). Zoonotic species are shown in bold, and emerging species are underlined.

Bacteria (and Rickettsia)

- Abiotrophia defectiva*
Achromobacter piechaudii
Achromobacter xylosoxidans
Acidaminococcus fermentans
Acinetobacter baumannii
Acinetobacter calcoaceticus
Acinetobacter haemolyticus
Acinetobacter johnsonii
Acinetobacter junii
Acinetobacter lwoffii
Acinetobacter radioresistens
Actinobacillus equuli
Actinobacillus hominis
Actinobacillus lignieresii
Actinobacillus pleuropneumoniae
Actinobacillus suis
Actinobacillus ureae
Actinomyces georgiae
Actinomyces gerencseriae
Actinomyces israelii
Actinomyces meyeri
Actinomyces naeslundii
Actinomyces neuii
Actinomyces odontolyticus
Actinomyces radingae
Actinomyces turicensis
Aerococcus viridans
Aeromonas caviae
Aeromonas hydrophila
Aeromonas sobria
Aeromonas veronii
Alcaligenes odorans
Amycolatopsis orientalis
Arcanobacterium bernardiae
Arcanobacterium haemolyticum
Arcanobacterium pyogenes
Arcobacter butzleri
Arcobacter cryaerophilus
Bacillus anthracis
Bacillus cereus
Bacillus circulans
Bacillus coagulans
Bacillus licheniformis
Bacillus mycoides
Bacillus pumilus
Bacillus sphaericus
Bacillus subtilis
Bacillus thuringiensis
Bacteroides caccae
Bacteroides distasonis
Bacteroides eggerthii
Bacteroides forsythus
Bacteroides fragilis
Bacteroides galacturonicus
Bacteroides merdae
Bacteroides ovatus
Bacteroides pectinophilus
Bacteroides splanchnicus
Bacteroides stercoris
Bacteroides thetaiotaomicron
Bacteroides uniformis
Bacteroides ureolyticus
Bacteroides vulgatus
Bartonella bacilliformis
Bartonella elizabethae
Bartonella henselae
Bartonella quintana
Bergeyella zoohelcum
Bifidobacterium dentium
Bilophila wadsworthia
Bordetella avium
Bordetella bronchiseptica
Bordetella parapertussis
Bordetella pertussis
Borrelia brasiliensis
Borrelia burgdorferi
Borrelia caucasica
Borrelia crocidurae
Borrelia duttonii
Borrelia hermsii
Borrelia hispanica
Borrelia latyschewii
Borrelia mazzottii
Borrelia parkeri
Borrelia persica
Borrelia recurrentis
Borrelia turicatae
Borrelia venezuelensis
Brevibacillus brevis
Brevundimonas diminuta
Brevundimonas vesicularis
Brucella melitensis
Burkholderia cepacia
Burkholderia mallei
Burkholderia pseudomallei
Campylobacter coli
Campylobacter concisus
Campylobacter curvus
Campylobacter fetus
Campylobacter gracilis
Campylobacter hyointestinalis
Campylobacter jejuni
Campylobacter lari
Campylobacter rectus
Campylobacter sputorum
Campylobacter upsaliensis
Capnocytophaga canimorsus
Capnocytophaga cynodegmi
Capnocytophaga gingivalis
Capnocytophaga ochracea
Capnocytophaga sputigena
Cardiobacterium hominis
Cedecea davisae
Cedecea lapagei
Cedecea neteri
Cellulomonas cellulans
Cellulomonas turbata
Centipeda periodontii
Chlamydia trachomatis
Chlamydophila pneumoniae
Chlamydophila psittaci
Chromobacterium violaceum
Chryseobacterium balustinum
Chryseobacterium meningosepticum
Citrobacter amalonaticus
Citrobacter braakii
Citrobacter farmeri
Citrobacter freundii
Citrobacter koseri
Citrobacter rodentium
Citrobacter sedlakii
Citrobacter werkmanii
Citrobacter youngae
Clostridium baratii
Clostridium bifermentans
Clostridium botulinum
Clostridium butyricum
Clostridium chauvoei
Clostridium difficile
Clostridium fallax
Clostridium histolyticum
Clostridium novyi
Clostridium perfringens
Clostridium ramosum
Clostridium septicum
Clostridium sordellii
Clostridium sporogenes
Clostridium tertium
Clostridium tetani
Collinsella aerofaciens
Comamonas testosteroni

July 29 2001

<i>Corynebacterium afermentans</i>	<i>Fluoribacter bozemanæ</i>	<i>Leptotrichia buccalis</i>
<i>Corynebacterium argentoratense</i>	<i>Fluoribacter dumoffii</i>	<i>Listeria ivanovii</i>
<i>Corynebacterium bovis</i>	<i>Fluoribacter gormanii</i>	<u><i>Listeria monocytogenes</i></u>
<u><i>Corynebacterium diphtheriæ</i></u>	<u><i>Francisella tularensis</i></u>	<i>Listeria seeligeri</i>
<i>Corynebacterium jeikeium</i>	<i>Fusobacterium mortiferum</i>	<i>Listeria welshimeri</i>
<i>Corynebacterium kutscheri</i>	<i>Fusobacterium necrophorum</i>	<i>Mannheimia haemolytica</i>
<i>Corynebacterium macginleyi</i>	<i>Fusobacterium nucleatum</i>	<i>Megamonas hypermegale</i>
<i>Corynebacterium minutissimum</i>	<i>Fusobacterium periodonticum</i>	<i>Megasphaera</i> sp.
<i>Corynebacterium propinquum</i>	<i>Fusobacterium ulcerans</i>	<i>Micromonas micros</i>
<i>Corynebacterium pseudodiphthericum</i>	<i>Fusobacterium varium</i>	<i>Moraxella catarrhalis</i>
<i>Corynebacterium pseudotuberculosis</i>	<i>Gardnerella vaginalis</i>	<i>Moraxella caviae</i>
<i>Corynebacterium striatum</i>	<i>Gemella morbillorum</i>	<i>Moraxella cuniculi</i>
<i>Corynebacterium ulcerans</i>	<i>Gordonia amarae</i>	<i>Moraxella ovis</i>
<i>Corynebacterium urealyticum</i>	<i>Gordonia bronchialis</i>	<i>Moraxella atlantæ</i>
<i>Corynebacterium xerosis</i>	<i>Gordonia rubropertincta</i>	<i>Moraxella bovis</i>
<i>Coxiella burnetii</i>	<i>Gordonia sputi</i>	<i>Moraxella lacunata</i>
<i>Delftia acidovorans</i>	<i>Gordonia terræ</i>	<i>Moraxella liquefaciens</i>
<i>Dermatophilus congolensis</i>	<i>Granulicatella adjacens</i>	<i>Moraxella nonliquefaciens</i>
<i>Dichelobacter nodosus</i>	<i>Haemophilus actinomycetemcomitans</i>	<i>Moraxella osloensis</i>
<i>Edwardsiella hoshinæ</i>	<i>Haemophilus aphrophilus</i>	<i>Moraxella lincolni</i>
<i>Edwardsiella tarda</i>	<u><i>Haemophilus ducreyi</i></u>	<i>Morganella morganii</i>
<i>Eggerthella lenta</i>	<i>Haemophilus haemolyticus</i>	<i>Mycobacterium abscessus</i>
<u><i>Ehrlichia chaffeensis</i></u>	<u><i>Haemophilus influenzae</i></u>	<i>Mycobacterium africanum</i>
<u><i>Ehrlichia equi</i></u>	<i>Haemophilus parahaemolyticus</i>	<i>Mycobacterium asiaticum</i>
<u><i>Ehrlichia ewingii</i></u>	<i>Haemophilus parainfluenzæ</i>	<u><i>Mycobacterium avium</i></u>
<i>Ehrlichia phagocytophila</i>	<i>Haemophilus paraphrophilus</i>	<u><i>Mycobacterium bovis</i></u>
<i>Ehrlichia sennetsu</i>	<i>Haemophilus segnis</i>	<i>Mycobacterium celatum</i>
<i>Eikenella corrodens</i>	<i>Hafnia alvei</i>	<i>Mycobacterium chelonæ</i>
<i>Enterobacter aerogenes</i>	<i>Helicobacter cinaedi</i>	<i>Mycobacterium conspicuum</i>
<i>Enterobacter amnigenus</i>	<i>Helicobacter fennelliae</i>	<u><i>Mycobacterium fortuitum</i></u>
<i>Enterobacter asburiae</i>	<i>Helicobacter heilmannii</i>	<i>Mycobacterium genavense</i>
<i>Enterobacter cancerogenus</i>	<i>Helicobacter pullorum</i>	<i>Mycobacterium gordonæ</i>
<i>Enterobacter cloacæ</i>	<i>Helicobacter pylori</i>	<u><i>Mycobacterium haemophilum</i></u>
<i>Enterobacter gergoviae</i>	<i>Kingella denitrificans</i>	<i>Mycobacterium kansasii</i>
<i>Enterobacter hormæchei</i>	<i>Kingella kingæ</i>	<u><i>Mycobacterium lepræ</i></u>
<i>Enterobacter sakazakii</i>	<i>Klebsiella granulomatis</i>	<i>Mycobacterium malmoense</i>
<i>Enterococcus avium</i>	<i>Klebsiella ornithinolytica</i>	<u><i>Mycobacterium marinum</i></u>
<i>Enterococcus casseliflavus</i>	<i>Klebsiella oxytoca</i>	<i>Mycobacterium mucogenicum</i>
<i>Enterococcus durans</i>	<u><i>Klebsiella pneumoniae</i></u>	<i>Mycobacterium peregrinum</i>
<u><i>Enterococcus faecalis</i></u>	<i>Kluyvera ascorbata</i>	<i>Mycobacterium porcinum</i>
<u><i>Enterococcus faecium</i></u>	<i>Kluyvera cryocrescens</i>	<i>Mycobacterium scrofulaceum</i>
<i>Enterococcus flavescens</i>	<i>Lactobacillus</i> sp.	<i>Mycobacterium senegalense</i>
<i>Enterococcus gallinarum</i>	<i>Legionella anisa</i>	<i>Mycobacterium shimoidei</i>
<i>Enterococcus hiræ</i>	<i>Legionella birminghamsis</i>	<i>Mycobacterium simiæ</i>
<i>Enterococcus mundtii</i>	<i>Legionella cherrii</i>	<i>Mycobacterium smegmatis</i>
<i>Enterococcus raffinosus</i>	<i>Legionella cincinnatiensis</i>	<i>Mycobacterium szulgai</i>
<i>Erysipelothrix rhusiopathiæ</i>	<i>Legionella feeleeii</i>	<u><i>Mycobacterium tuberculosis</i></u>
<u><i>Escherichia coli</i></u>	<i>Legionella hackeliae</i>	<u><i>Mycobacterium ulcerans</i></u>
<i>Eubacterium brachy</i>	<i>Legionella jordani</i>	<i>Mycobacterium xenopi</i>
<i>Eubacterium combesii</i>	<i>Legionella lansingensis</i>	<i>Mycoplasma fermentans</i>
<i>Eubacterium contortum</i>	<i>Legionella longbeachæ</i>	<i>Mycoplasma genitalium</i>
<i>Eubacterium cylindroides</i>	<i>Legionella oakridgensis</i>	<i>Mycoplasma hominis</i>
<i>Eubacterium limosum</i>	<u><i>Legionella pneumophila</i></u>	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
<i>Eubacterium moniliforme</i>	<i>Legionella rubrilucens</i>	<i>Mycoplasma salivarium</i>
<i>Eubacterium multiforme</i>	<i>Legionella sainthelensi</i>	<i>Myroides odoratus</i>
<i>Eubacterium nodatum</i>	<i>Legionella tucsonensis</i>	<i>Neisseria cinerea</i>
<i>Eubacterium nodatum</i>	<i>Legionella wadsworthii</i>	<i>Neisseria elongata</i>
<i>Eubacterium rectale</i>	<i>Leifsonia aquatica</i>	<i>Neisseria flava</i>
<i>Eubacterium saburreum</i>	<i>Leptospira borgpetersenii</i>	<i>Neisseria flavescens</i>
<i>Eubacterium saphenum</i>	<i>Leptospira inadai</i>	<u><i>Neisseria gonorrhoeæ</i></u>
<i>Eubacterium sulci</i>	<u><i>Leptospira interrogans</i></u>	<i>Neisseria lactamica</i>
<i>Eubacterium tenue</i>	<i>Leptospira kirschneri</i>	<u><i>Neisseria meningitidis</i></u>
<i>Eubacterium timidum</i>	<i>Leptospira meyeri</i>	<i>Neisseria mucosa</i>
<i>Ewingella americana</i>	<i>Leptospira noguchii</i>	<i>Neisseria perflava</i>
<i>Fibrobacter intestinalis</i>	<i>Leptospira santarosai</i>	<i>Neisseria sicca</i>
<i>Filifactor alocis</i>	<i>Leptospira weilii</i>	<i>Neisseria subflava</i>
<i>Finexgoldia magna</i>		

July 29 2001

- Neisseria weaveri*
Nocardia asteroides
Nocardia brasiliensis
Nocardia caviae
Nocardia farcinica
Nocardia nova
Nocardia otitidiscaviarum
Nocardia pseudobrasiliensis
Nocardia transvalensis
Ochrobactrum anthropi
Oligella ureolytica
Oligella urethralis
Orientia tsutsugamushi
Paenibacillus alvei
Paenibacillus macerans
Pantoea agglomerans
Pasteurella aerogenes
Pasteurella caballi
Pasteurella canis
Pasteurella dagmatis
Pasteurella multocida
Pasteurella pneumotropica
Pasteurella stomatis
Peptococcus niger
Peptostreptococcus anaerobius
Peptostreptococcus asaccharolyticus
Peptostreptococcus lactolyticus
Peptostreptococcus prevotii
Peptostreptococcus vaginalis
Photobacterium damsela
Plesiomonas shigelloides
Porphyromonas asaccharolytica
Porphyromonas catoniae
Porphyromonas circumdentaria
Porphyromonas endodontalis
Porphyromonas gingivalis
Porphyromonas levii
Porphyromonas macacae
Prevotella bivia
Prevotella buccae
Prevotella buccalis
Prevotella corporis
Prevotella dentalis
Prevotella denticola
Prevotella disiens
Prevotella enoeca
Prevotella heparinolytica
Prevotella intermedia
Prevotella loescheii
Prevotella melaninogenica
Prevotella nigrescens
Prevotella oralis
Prevotella oris
Prevotella oulora
Prevotella ruminicola
Prevotella tanneriae
Prevotella veroralis
Prevotella zoogloeoformans
Propionibacterium acnes
Propionibacterium avidum
Propionibacterium granulosum
Propionibacterium propionicum
Proteus mirabilis
Proteus penneri
Proteus vulgaris
Providencia alcalifaciens
Providencia rettgeri
Providencia stuartii
Pseudomonas aeruginosa
Pseudomonas alcaligenes
Pseudomonas fluorescens
Pseudomonas pseudoalcaligenes
Pseudomonas putida
Pseudomonas stutzeri
Pseudonocardia autotrophica
Pseudoramibacter alactolyticus
Psychrobacter phenylpyruvicus
Rahnella aquatilis
Ralstonia pickettii
Rhodococcus equi
Rhodococcus erythropolis
Rhodococcus fascians
Rhodococcus rhodnii
Rhodococcus rhodochrous
Rickettsia africae
Rickettsia akari
Rickettsia australis
Rickettsia conorii
Rickettsia felis
Rickettsia honei
Rickettsia japonica
Rickettsia massiliae
Rickettsia prowazekii
Rickettsia rickettsii
Rickettsia sibirica
Rickettsia typhi
Rothia dentocariosa
Ruminococcus productus
Saccharomonospora viridis
Saccharopolyspora rectivirgula
Salmonella bongori
Salmonella choleraesuis
Salmonella enteritidis
Salmonella typhi
Salmonella typhimurium
Sebaldella termitidis
Selenomonas artemidis
Selenomonas diana
Selenomonas flueggei
Selenomonas infelix
Selenomonas noxia
Serratia ficaria
Serratia marcescens
Serratia odorifera
Serratia plymuthica
Serratia proteamaculans
Serratia rubidaea
Shigella boydii
Shigella dysenteriae
Shigella flexneri
Shigella sonnei
Sphingomonas paucimobilis
Spirillum minus
Staphylococcus aureus
Staphylococcus epidermidis
Staphylococcus haemolyticus
Staphylococcus hyicus
Staphylococcus intermedius
Staphylococcus lugdunensis
Staphylococcus saprophyticus
Staphylococcus warneri
Stenotrophomonas maltophilia
Streptobacillus moniliformis
Streptococcus acidominimus
Streptococcus agalactiae
Streptococcus anginosus
Streptococcus bovis
Streptococcus canis
Streptococcus constellatus
Streptococcus criceti
Streptococcus equi
Streptococcus gordonii
Streptococcus intermedius
Streptococcus milleri
Streptococcus mitis
Streptococcus mutans
Streptococcus pneumoniae
Streptococcus pyogenes
Streptococcus salivarius
Streptococcus sanguis
Streptococcus sobrinus
Streptococcus suis
Streptococcus uberis
Sutterella wadsworthensis
Suttonella indologenes
Tatlockia maceachernii
Tatlockia micdadei
Tatumella tyseos
Treponema carateum
Treponema pallidum
Tropheryma whippelii
Tsukamurella inchonensis
Tsukamurella paurometabola
Tsukamurella pulmonis
Tsukamurella tyrosinosolvens
Ureaplasma urealyticum
Veillonella atypica
Veillonella dispar
Veillonella parvula
Vibrio alginolyticus
Vibrio cholerae
Vibrio cincinnatiensis
Vibrio fluvialis
Vibrio furnissii
Vibrio hollisae
Vibrio mimicus
Vibrio parahaemolyticus
Vibrio vulnificus
Wolinella succinogenes
Yersinia bercovieri
Yersinia enterocolitica
Yersinia frederiksenii
Yersinia intermedia
Yersinia kristensenii
Yersinia mollaretii
Yersinia pestis
Yersinia pseudotuberculosis
Yersinia rohdei
Yersinia ruckeri
- Fungi**
Absidia corymbifera
Acremonium alabamense
Acremonium curvulum
Acremonium falciforme
Acremonium kiliense
Acremonium potronii
Acremonium recifei

July 29 2001

- Acremonium roseogriseum*
Acremonium strictum
Acrophialophora fusispora
Actinomadura madurae
Actinomadura pelletieri
Alternaria alternata
Alternaria chlamydospora
Alternaria dianthicola
Alternaria infectoria
Alternaria longipes
Alternaria stemphyloides
Alternaria tenuissima
Aphanoascus fulvescens
Aphophysomyces elegans
Arthrinium phaeospermum
Aspergillus candidus
Aspergillus clavatus
Aspergillus fisherianus
Aspergillus flavipes
***Aspergillus flavus* group**
***Aspergillus fumigatus* group**
Aspergillus glaucus
***Aspergillus nidulans* group**
Aspergillus niger
Aspergillus oryzae
***Aspergillus terreus* group**
Aspergillus versicolor
Aspergillus wentii
Aureobasidium pullulans
Basidiobolus ranarum
Beauveria bassiana
Bipolaris australiensis
Bipolaris hawaiiensis
Bipolaris spicifera
Blastomyces dermatitidis
Blastoschizomyces capitatus
Botryomyces caespitosus
Botryosphaeria subglobosa
Candida albicans
Candida catenulata
Candida famata
Candida glabrata
Candida guilliermondii
Candida haemulonis
Candida intermedia
Candida kefyr
Candida krusei
Candida lambica
Candida lipolytica
Candida lusitanae
Candida norvegensis
Candida parapsilosis
Candida rugosa
Candida tropicalis
Candida viswanathii
Candida zeylanoides
Cephalophora irregularis
Cerinosterus cyanescens
Chaetomium atrotunneum
Chaetomium funicola
Chaetomium globosum
Chaetomium perpulchrum
Chaetomium strumarium
Chaetophoma dermo-unguis
Chlamydoabsidia padenii
Chlorella protothecoides
Chrysonilia sitophila
Cladophialophora arxii
Cladophialophora bantiana
Cladophialophora boppii
Cladophialophora carrionii
Cladophialophora devriesii
Cladorrhinum bulbillosum
Cladosporium cladosporioides
Cladosporium elatum
Cladosporium oxysporum
Cladosporium sphaerospermum
Coccidioides immitis
Cokeromyces recurvatus
Colletotrichum coccodes
Colletotrichum dematium
Colletotrichum gloeosporioides
Conidiobolus coronatus
Conidiobolus incongruus
Conidiobolus lamprauges
Coniothyrium fuckelii
Coprinus cinereus
Cryptococcus neoformans
Cunninghamella bertholletiae
Curvularia brachyspora
Curvularia clavata
Curvularia geniculata
Curvularia lunata
Curvularia pallescens
Curvularia senegalensis
Curvularia veruculosa
Cylindrocarpon cyanescens
Cylindrocarpon lichenicola
Cylindrocarpon vaginae
Dichotomophthora portulacae
Dichotomophthoropsis nympphaerum
Dissitimurus exedrus
Doratomyces stemonitis
Drechslera biseptata
Emmonsia crescens
Emmonsia parva
Engyodontium album
Epidermophyton floccosum
Exophiala dermatitidis
Exophiala jeanselmei
Exophiala moniliae
Exophiala pisciphila
Exophiala psychrophila
Exophiala salmonis
Exophiala spinifera
Exserohilum longirostratum
Exserohilum magcinnisii
Fusarium aquaeductum
Fusarium chlamydosporum
Fusarium dimerum
Fusarium incarnatum
Fusarium moniliforme
Fusarium napiforme
Fusarium nivale
Fusarium oxysporum
Fusarium pallidoroseum
Fusarium proliferatum
Fusarium sacchari
Fusarium solani
Fusarium subglutinans
Fusarium ventricosum
Fusarium verticillioides
Hansenula anomala
Histoplasma capsulatum
Hortaea wernneckii
Lasiodiplodia theobromae
Lecytophora hoffmannii
Lecytophoramutabilis
Leptosphaeria senegalensis
Leptosphaeria tompkinsii
Loboa loboii
Madurella grisea
Madurella mycetomati
Malassezia furfur
Malassezia globosa
Malassezia obtusa
Malassezia pachydermatis
Malassezia restricta
Malassezia slooffiae
Malassezia sympodialis
Microascus cinereus
Microascus cirrosus
Microsporium audouinii
Microsporium canis
Microsporium equinum
Microsporium ferrugineum
Microsporium fulvum
Microsporium gallinae
Microsporium gypseum
Microsporium nanum
Microsporium persicolor
Microsporium praecox
Microsporium racemosum
Microsporium vanbreuseghemii
Moniliella suavelolens
Mucor circinelloides
Mucor hiemalis
Mucor indicus
Mucor racemosus
Mucor ramosissimus
Myceliophthora thermophila
Mycocentrospora acerina
Mycocleptodiscus indicus
Myriodontium keratinophilum
Nannizzia cajetani
Natrassia mangiferae
Neocosmospora vasinfecta
Neotestudina rosatii
Nigrospora sphaerica
Ochroconis gallopava
Oidiodendron cerealis
Onychocola canadensis
Ovadendron ochraceum
Ovadendron sulphureo-ochraceum
Paecilomyces farinosus
Paecilomyces fumerosoreus
Paecilomyces javanicus
Paecilomyces lilacinus
Paecilomyces marquandii
Paecilomyces variotii
Paecilomyces viridis
Paracoccidioides brasiliensis
Penicillium chrysogenum
Penicillium citrinum
Penicillium commune
Penicillium decumbens
Penicillium dupontii
Penicillium expansum

July 29 2001

Penicillium marneffe

Penicillium purpurogenum
Phaeoanellomyces elegans
Phaeoanellomyces werneckii
Phaeosclera dematioides
Phaeotrichoconis crotalariae
Phialemonium curvatum
Phialemonium obovatum
Phialophora bubakii
Phialophora pedrosoi
Phialophora repens
Phialophora richardsiae

Phialophora verrucosa

Phoma cava
Phoma cruris-hominis
Phoma eupyrena
Phoma glomerata
Phoma herbarum
Phoma hibernica
Phoma minutella
Phoma oculo-hominis
Phyllosticta citricarpa

Piedraia hortae*Pleurophoma pleurospora**Pneumocystis carinii****Prototheca wickerhamii******Prototheca zopfii******Pseudoallescheria boydii******Pseudomicrodochium suttonii****Pyrenochaeta mackinnonii**Pyrenochaeta romeroi**Pyrenochaeta unguis-hominis****Pythium insidiosum****Rhinocladiella aquaspersa**Rhinocladiella compacta**Rhinocladiella obovoidea**Rhinocladiella schulzeri****Rhinosporidium seeberi******Rhizomucor miehei******Rhizomucor pusillus****Rhizopus azygosporus****Rhizopus microsporus******Rhizopus oryzae****Rhizopus stolonifer**Rhodotorula glutinis**Rhodotorula minuta****Rhodotorula mucilaginosa****Rhodotorula rubra**Saccharomyces cerevisiae**Saksenaea vasiformis****Sarcinomyces phaeomuriformis****Scedosporium prolificans**Schizophyllum commune****Scolecobasidium humicola******Scolecobasidium tshawytschae****Scopulariopsis acremonium**Scopulariopsis asperula****Scopulariopsis brevicaulis****Scopulariopsis brumptii**Scopulariopsis candida**Scopulariopsis flava**Scopulariopsis fusca**Scytalidium hyalinum**Scytalidium infestans**Setosphaeria rostrata****Sporothrix schenckii****Stenella araguata**Streptomyces somaliensis**Taeniolella exilis**Taeniolella stilbospora**Tetraploa aristata**Thermomyces lanuginosus**Torulopsis magnoliae**Trichoderma pseudokoningii**Trichoderma viride**Trichomaris invadens****Trichophyton ajelloi****Trichophyton concentricum****Trichophyton equinum******Trichophyton gallinae****Trichophyton gourvilii****Trichophyton megninii******Trichophyton mentagrophytes******Trichophyton rubrum******Trichophyton schoenleinii******Trichophyton simii****Trichophyton soudanense****Trichophyton tonsurans******Trichophyton verrucosum******Trichophyton violaceum******Trichosporon asahii******Trichosporon beigelii******Trichosporon cutaneum******Trichosporon inkin******Trichosporon mucoides******Trichosporon ovoides****Tritirachium oryzae**Tubercularia vulgaris**Ulocladium chartarum**Veronaea botryosa**Verticillium nigrescens**Volutella cinerescens***Helminths*****Acanthocephalus rauschi******Achillurbainia nouveli******Achillurbainia recondita******Alaria americana******Alaria marcianae******Amphimerus pseudofelineus******Anatrichosoma cutaneum******Ancylostoma braziliense******Ancylostoma caninum******Ancylostoma ceylanicum******Ancylostoma duodenale******Ancylostoma malayanum******Anisakis physeteris******Anisakis simplex******Aonchotheca philippinensis******Apophallus donicus******Artyfechinostomum mehrai******Ascaris lumbricoides******Ascaris suum******Ascocotyle sp.******Australobilharzia terrigalensis******Baylisascaris procyonis******Bertiella mucronata******Bertiella studeri******Bilharziella polonica******Bolbosoma sp.******Brugia beaveri******Brugia guyanensis******Brugia malayi******Brugia pahangi******Brugia timori******Bunostomum phlebotomum******Calodium hepaticum******Carneocephallus brevicata******Cathaemasia cabrerai******Centrocestus armatus******Centrocestus formosanus******Cheilospirura sp.******Clinostomum complanatum******Contraecaeum osculatum******Corynosoma strumosum******Cryptocotyle lingua******Cyclodontostomum purvisi******Dicrocoelium dendriticum******Dicrocoelium hospes******Diocotophyme renale******Dipetalonema arbuta******Dipetalonema reconditum******Diphyllobothrium cameroni******Diphyllobothrium cordatum******Diphyllobothrium dalliae******Diphyllobothrium dendriticum******Diphyllobothrium elegans******Diphyllobothrium erinaceieuropaei******Diphyllobothrium hians******Diphyllobothrium houghtoni******Diphyllobothrium klebanovskii******Diphyllobothrium lanceolatum******Diphyllobothrium latum******Diphyllobothrium mansonoides******Diphyllobothrium nihonkaiense******Diphyllobothrium orcini******Diphyllobothrium pacificum******Diphyllobothrium scoticum******Diphyllobothrium stemmacephalum******Diphyllobothrium theileri******Diplogonoporus balaenopterae******Diplogonoporus brauni******Diplogonoporus fukuokaensis******Diplostomum spathaceum******Dipylidium caninum******Dirofilaria immitis******Dirofilaria repens******Dirofilaria striata******Dirofilaria subdermata******Dirofilaria tenuis******Dirofilaria ursi******Dracunculus insignis******Dracunculus medinensis******Drepanidotaenia lanceolata******Echinochasmus japonicus******Echinochasmus jufoensis******Echinochasmus perfoliatus******Echinococcus granulosus******Echinococcus multilocularis******Echinococcus oligarthus******Echinococcus vogeli******Echinoparyphium recurvatum******Echinostoma cinetorchis******Echinostoma echinatum******Echinostoma hortense******Echinostoma ilocanum******Echinostoma jassyense******Echinostoma macrorchis***

July 29 2001

<i>Echinostoma malayanum</i>	<i>Multiceps glomeratus</i>	<i>Schistosoma bovis</i>
<i>Echinostoma revolutum</i>	<i>Multiceps longihamatus</i>	<i>Schistosoma haematobium</i>
<i>Enterobius gregorii</i>	<i>Multiceps multiceps</i>	<i>Schistosoma intercalatum</i>
<i>Enterobius vermicularis</i>	<i>Multiceps serialis</i>	<i>Schistosoma japonicum</i>
<i>Episthmium caninum</i>	<i>Nanophyetus salmincola</i>	<i>Schistosoma malayensis</i>
<i>Eucoleus aerophilus</i>	<i>Necator americanus</i>	<i>Schistosoma mansoni</i>
<i>Eurytrema pancreaticum</i>	<i>Nematodirus abnormalis</i>	<i>Schistosoma mattheei</i>
<i>Eustrongylides</i> sp.	<i>Neodiplostomum</i> sp.	<i>Schistosoma mekongi</i>
<i>Fasciola gigantica</i>	<i>Oesophagostomum aculeatum</i>	<i>Schistosoma rodhaini</i>
<i>Fasciola hepatica</i>	<i>Oesophagostomum bifurcum</i>	<i>Schistosoma spindale</i>
<i>Fasciola indica</i>	<i>Oesophagostomum stephanostomum</i>	<i>Schistosomatium douthitti</i>
<i>Fasciolopsis buski</i>	<i>Onchocerca volvulus</i>	<i>Setaria equina</i>
<i>Fibricola seoulensis</i>	<i>Opisthorchis felineus</i>	<i>Spirocerca lupi</i>
<i>Gastrodiscoides hominis</i>	<i>Opisthorchis guayaquilensis</i>	<i>Stellantchasmus falcatus</i>
<i>Gigantobilharzia huttoni</i>	<i>Opisthorchis noverca</i>	<i>Stictodora fuscata</i>
<i>Gigantobilharzia sturniae</i>	<i>Opisthorchis sinensis</i>	<i>Strongyloides fuelleborni</i>
<i>Gnathostoma doloresi</i>	<i>Opisthorchis viverrini</i>	<i>Strongyloides papillosus</i>
<i>Gnathostoma hispidum</i>	<i>Orientobilharzia turkestanica</i>	<i>Strongyloides ransomi</i>
<i>Gnathostoma nipponicum</i>	<i>Ornithobilharzia</i> sp.	<i>Strongyloides stercoralis</i>
<i>Gnathostoma spinigerum</i>	<i>Ostertagia ostertagi</i>	<i>Strongyloides westeri</i>
<i>Gongylonema pulchrum</i>	<i>Paragonimus africanus</i>	<i>Syphacea obvelata</i>
<i>Gymnophalloides</i> sp.	<i>Paragonimus bankokensis</i>	<i>Taenia crassiceps</i>
<i>Haemonchus contortus</i>	<i>Paragonimus caliensis</i>	<i>Taenia saginata</i>
<i>Haplorchis pumilo</i>	<i>Paragonimus heterotremus</i>	<i>Taenia solium</i>
<i>Haplorchis taichui</i>	<i>Paragonimus hueit'ungensis</i>	<i>Taenia taeniaeformis</i>
<i>Haplorchis vanissima</i>	<i>Paragonimus kellicotti</i>	<i>Teladorsagia circumcincta</i>
<i>Haplorchis yokogawai</i>	<i>Paragonimus mexicanus</i>	<i>Ternidens deminutus</i>
<i>Heterobilharzia americana</i>	<i>Paragonimus miyazakii</i>	<i>Thelazia californiensis</i>
<i>Heterophyes dispar</i>	<i>Paragonimus ohirai</i>	<i>Thelazia callipaeda</i>
<i>Heterophyes heterophyes</i>	<i>Paragonimus philippinensis</i>	<i>Thelazia rhodesii</i>
<i>Heterophyes nocens</i>	<i>Paragonimus sadoensis</i>	<i>Toxascaris leonina</i>
<i>Heterophyopsis continua</i>	<i>Paragonimus siamensis</i>	<i>Toxocara canis</i>
<i>Himasthala muehlensi</i>	<i>Paragonimus skrjabini</i>	<i>Toxocara cati</i>
<i>Hymenolepis diminuta</i>	<i>Paragonimus uterobilateralis</i>	<i>Trichinella britovi</i>
<i>Hymenolepis nana</i>	<i>Paragonimus westermani</i>	<i>Trichinella nativa</i>
<i>Hypoderaeum conoideum</i>	<i>Parascaris equorum</i>	<i>Trichinella nelsoni</i>
<i>Inermicapsifer madagascariensis</i>	<i>Parastrongylus cantonensis</i>	<i>Trichinella pseudospiralis</i>
<i>Isoparorchis hypselobagri</i>	<i>Parastrongylus costaricensis</i>	<i>Trichinella spiralis</i>
<i>Lagochilascaris minor</i>	<i>Pearsonema plica</i>	<i>Trichinella T5</i>
<i>Ligula intestinalis</i>	<i>Pelodera strongyloides</i>	<i>Trichobilharzia brevis</i>
<i>Loa loa</i>	<i>Phaneropsolus bonnei</i>	<i>Trichobilharzia ocellata</i>
<i>Macracanthorhynchus hirudinaceus</i>	<i>Philophthalmus lacrymosus</i>	<i>Trichobilharzia stagnicolae</i>
<i>Macracanthorhynchus ingens</i>	<i>Phocanema decipiens</i>	<i>Trichostrongylus affinis</i>
<i>Mammomonogamus laryngeus</i>	<i>Physaloptera caucasica</i>	<i>Trichostrongylus axei</i>
<i>Mammomonogamus nasicola</i>	<i>Physaloptera transfuga</i>	<i>Trichostrongylus brevis</i>
<i>Mansonella ozzardi</i>	<i>Plagiorchis harinasutai</i>	<i>Trichostrongylus calcaratus</i>
<i>Mansonella perstans</i>	<i>Plagiorchis javensis</i>	<i>Trichostrongylus capricola</i>
<i>Mansonella rodhaini</i>	<i>Plagiorchis muris</i>	<i>Trichostrongylus colubriformis</i>
<i>Mansonella semiclarum</i>	<i>Plagiorchis philippinensis</i>	<i>Trichostrongylus instabilis</i>
<i>Mansonella streptocerca</i>	<i>Poikilorchis congolensis</i>	<i>Trichostrongylus lerouxi</i>
<i>Marshallagia marshalli</i>	<i>Procerovum calderoni</i>	<i>Trichostrongylus orientalis</i>
<i>Mathevotaenia symmetrica</i>	<i>Prohemistomum vivax</i>	<i>Trichostrongylus probolurus</i>
<i>Mecistocirrus digitatus</i>	<i>Prosthodendrium molenkampi</i>	<i>Trichostrongylus skrjabini</i>
<i>Meningonema peruzzii</i>	<i>Pseudamphistomum aethiopicum</i>	<i>Trichostrongylus vitrinus</i>
<i>Mesocestoides lineatus</i>	<i>Pseudamphistomum truncatum</i>	<i>Trichuris suis</i>
<i>Mesocestoides variabilis</i>	<i>Psilorchis hominis</i>	<i>Trichuris trichiura</i>
<i>Metagonimus minutus</i>	<i>Pygidiopsis summa</i>	<i>Trichuris vulpis</i>
<i>Metagonimus yokogawai</i>	<i>Pyramicocephalus anthrocephalus</i>	<i>Uncinaria stenocephala</i>
<i>Metastrongylus elongatus</i>	<i>Raillietina celebensis</i>	<i>Watsonius watsoni</i>
<i>Metorchis albidus</i>	<i>Raillietina demerariensis</i>	<i>Wuchereria bancrofti</i>
<i>Metorchis conjunctus</i>	<i>Rhabditis elongata</i>	<i>Wuchereria lewisi</i>
<i>Microfilaria bolivarensis</i>	<i>Rhabditis inermis</i>	
<i>Micronema deletrix</i>	<i>Rhabditis niellyi</i>	
<i>Moniezia expansa</i>	<i>Rhabditis pelloi</i>	
<i>Moniliformis moniliformis</i>	<i>Rictularia</i> sp.	
<i>Multiceps brauni</i>	<i>Schistocephalus solidus</i>	

Protozoa

Acanthamoeba astronyxis
Acanthamoeba castellanii
Acanthamoeba culbertsoni

July 29 2001

<i>Acanthamoeba hatchetti</i>	Apoi virus	Hughes virus
<i>Acanthamoeba palestinensis</i>	<u>Australian bat lyssavirus</u>	Human adenovirus A
<i>Acanthamoeba polyphaga</i>	<u>B19 virus</u>	Human adenovirus B
<i>Acanthamoeba rhysoides</i>	Bagaza virus	Human adenovirus C
<i>Babesia bovis</i>	Bangui virus	Human adenovirus D
<i>Babesia divergens</i>	<u>Banna virus</u>	Human adenovirus E
<i>Babesia gibsoni</i>	Banzi virus	Human adenovirus F
<i>Babesia microti</i>	<u>Barmah Forest virus</u>	Human astrovirus
<i>Balamuthia mandrillaris</i>	Batken virus	Human Coronavirus 229E
<i>Balantidium coli</i>	Bayou virus	Human Coronavirus OC43
<i>Blastocystis hominis</i>	Bebaru virus	Human enterovirus 68
<u><i>Cryptosporidium parvum</i></u>	Bhanja virus	Human enterovirus 70
<u><i>Cyclospora cayentanensis</i></u>	BK virus	Human enterovirus A
<i>Dientamoeba fragilis</i>	Black creek canal virus	<u>Human enterovirus B</u>
<u><i>Encephalitozoon cuniculi</i></u>	Borna disease virus	Human enterovirus C
<u><i>Encephalitozoon hellem</i></u>	Bovine Ephemeral Fever virus	Human enterovirus D
<u><i>Encephalitozoon intestinalis</i></u>	Bovine Papular Stomatitis virus	<u>Human Herpesvirus 1</u>
<i>Entamoeba chattoni</i>	<u>BSE agent</u>	<u>Human Herpesvirus 2</u>
<i>Entamoeba histolytica</i>	Buffalopox virus	<u>Human Herpesvirus 3</u>
<i>Entamoeba moshkovskii</i>	Bunyamwera virus	Human Herpesvirus 4
<u><i>Enterocytozoon bieneusi</i></u>	Bussuquara virus	<u>Human Herpesvirus 5</u>
<u><i>Giardia duodenalis</i></u>	Bwamba virus	Human Herpesvirus 6
<i>Isopora belli</i>	<u>California encephalitis virus</u>	Human Herpesvirus 7
<i>Leishmania aethiopica</i>	Candiru virus complex	<u>Human Herpesvirus 8</u>
<i>Leishmania amazonensis</i>	Caraparu virus	<u>Human Immunodeficiency Virus 1</u>
<i>Leishmania braziliensis</i>	Catu virus	<u>Human Immunodeficiency Virus 2</u>
<i>Leishmania chagasi</i>	<u>Cercopithecine herpes virus 1</u>	Human papillomavirus
<i>Leishmania donovani</i>	Chandipura virus	Human parainfluenza virus 1
<i>Leishmania guyanensis</i>	Changuinola virus	Human parainfluenza virus 2
<u><i>Leishmania infantum</i></u>	<u>Chikungunya virus</u>	Human parainfluenza virus 3
<i>Leishmania lainsoni</i>	Chim virus	Human parainfluenza virus 4
<i>Leishmania major</i>	CJD agent	Human parechovirus type 1
<i>Leishmania mexicana</i>	Colorado tick fever virus	Human parechovirus type 2
<i>Leishmania naiffi</i>	Cote d'Ivoire Ebola virus	Human Respiratory Syncytial virus
<i>Leishmania panamensis</i>	Cowpox virus	Human Rhinovirus A
<i>Leishmania peruviana</i>	<u>Crimean-Congo haemorrhagic fever virus</u>	Human Rhinovirus B
<i>Leishmania pifanoi</i>	Dakar bat virus	<u>Human T-Lymphotropic Virus 1</u>
<i>Leishmania shawi</i>	<u>Denque virus</u>	Igbo-ora virus
<i>Leishmania tropica</i>	Dhori virus	Ilheus virus
<i>Leishmania venezuelensis</i>	Dobrava-Belgrade virus	<u>Influenza A virus</u>
<i>Naegleria fowleri</i>	Dugbe virus	Influenza B virus
<i>Nosema africanum</i>	Duvenhage virus	Influenza C virus
<i>Nosema ceylonensis</i>	<u>Eastern equine encephalitis virus</u>	Issyk-Kul virus
<i>Nosema connori</i>	Edge Hill virus	<u>Japanese encephalitis virus</u>
<i>Nosema ocularum</i>	Encephalomyocarditis virus	JC virus
<i>Pentatrichomonas hominis</i>	European bat lyssavirus 1	<u>Junin virus</u>
<i>Plasmodium falciparum</i>	European bat lyssavirus 2	Juquitiba virus
<i>Plasmodium knowlesi</i>	<u>European Tick-borne encephalitis virus</u>	Kairi virus
<i>Plasmodium malariae</i>	Everglades virus	Kasokero virus
<i>Plasmodium ovale</i>	Eyach virus	Kedougou virus
<i>Plasmodium simium</i>	<u>Far eastern Tick-borne encephalitis virus</u>	Kemerovo virus
<i>Plasmodium vivax</i>	Foot and mouth disease virus	Kokobera virus
<i>Retortamonas intestinalis</i>	Gan gan virus	Koutango virus
<i>Sarcocystis hominis</i>	Getah virus	<u>Kyasanur forest disease virus</u>
<i>Sarcocystis lindermanni</i>	<u>Guama virus</u>	<u>Laquna Negra virus</u>
<i>Sarcocystis suihominis</i>	<u>Guanarito virus</u>	Lanjan virus
<u><i>Toxoplasma gondii</i></u>	Guaroa virus	<u>Lassa virus</u>
<u><i>Trachipleistophora hominis</i></u>	<u>Hantaan virus</u>	Lebombo virus
<i>Trichomonas tenax</i>	<u>Hendra virus</u>	Lechiguana virus
<i>Trichomonas vaginalis</i>	<u>Hepatitis A virus</u>	Louping ill virus
<u><i>Trypanosoma brucei</i></u>	<u>Hepatitis B virus</u>	Lymphocytic choriomeningitis virus
<u><i>Trypanosoma cruzi</i></u>	<u>Hepatitis C virus</u>	<u>Machupo virus</u>
<i>Vittaforma corneae</i>	Hepatitis delta virus	Madrid virus
	<u>Hepatitis E virus</u>	<u>Marburg virus</u>
	<u>Hepatitis G virus</u>	Marituba virus
	HU39694 virus	<u>Mayaro virus</u>
Viruses (and prions)		
<u>Andes virus</u>		